

社 会 学 部

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 浅田 壽男	大学院の授業担当の 有無（有）
------------	----------	-------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>(1)「英語 AB」の学習支援 ・促進のための取り組み</p> <p>(2)「時事英語 AB」の学習支援 ・促進のための取り組み</p>	<p>2000年4月～ 2004年3月</p> <p>2000年4月～ 2004年3月</p>	<p>(1)この科目に限らず、担当している全科目で、授業方法や内容への意見や希望を求めることを含んだアンケートを毎学期の始めと終わりに実施して、常にその折々の受講生のレベルやニーズに合わせた方法や内容を心がけている。 自作の教材プリントや自作の市販テキストを用いて、きめ細かく指導するように努めている。教材プリントの中には、ロンドンを舞台とした小説を読むような場合には、周辺の地図を加えて、頭の中に小説の舞台が具体的に出来上がるようにしようとする類のものも含んでいる。</p> <p>(2)時事英語の市販テキストを読むだけでなく、各記事の朗読を聴かせて、多角的に時事英語に習熟できるように創意工夫に努めている。 時事英語に頻出する用語集を作成して配布し、受講生各自の学習支援をしている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>「文化から見る日英語比較」 (K.G.りぶれっと) 関西学院大学出版会</p>	<p>2003年11月</p>	<p>社会学部の基礎演習や研究演習、さらには大学院言語コミュニケーション文化研究科の授業で用いることを目的に執筆したもので、ふだん体系的に論じられることの少ない言葉とその裏に潜む社会や文化との関わりについて、特に従来、取り上げられることのなかった問題やテーマを中心に論じたものである。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>外国語としての英語や日英の文化比較への理解を深めるための啓蒙活動</p>	<p>2003年2月26日</p>	<p>加古川平成ロータリークラブ第31回例会にて「文化から見る日英比較—英語のアゴと日本語の口元—」と題して、日英語の表現の裏にある文化の影響を論じる講演を行った。</p>

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 浅野 仁	大学院の授業担当の有無（有）
------------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>1) 視聴覚教材の活用 2) ゲストスピーカーの招聘 3) コミュニケーションカードの配付 4) 新聞・雑誌記事の紹介 5) 現場見学</p>	<p>2004年4月 ～2005年3月</p>	<p>1) テーマにそってビデオを紹介。 2) 具体的な現状と課題を実践者により講義を年数回実施。 3) 多人数講義では、出席票の裏面に質問、反論、感想を記述してもらい次週にコメントする。 4) 今日的话题をマスメディアの記事をコピーし紹介する。 5) 必要に応じて、機関、施設を訪問し、ヒアリングを行う。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 研究成果をコピーして講義 放送大学のビデオ</p>	<p>2004年4月 ～2005年3月</p>	<p>高齢者イメージ 高齢者の認知年齢 モラルスケール QOL 放送大学のビデオ教材（自作）</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>	<p>2004年4月 ～2005年3月</p>	<p>阪神シニアカレッジ運営委員会委員長 神戸市市民福祉大学カリキュラム検討委員会委員長 兵庫県社会福祉研修所委員会委員長 いずれもカリキュラムの策定と評価</p>

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
社会学部	教授	阿部 潔	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2001年4月～ 2005年4月～	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多人数の学生が受講する講義科目において、毎回の授業ごとにその単元の内容について質問を出し、授業内容に対する質問等も含めて配布した用紙に回答を記入させる（この活動を practice と呼ぶ）。 Practice の内容を集計し分析を加えたうえで、次回の授業の冒頭にこちらからの分析結果を踏まえて、コメント等を返す（この活動を feed-back と呼ぶ）。こうした practice / feed-back を講義科目に取り入れることによって、授業が講師から学生に向けての一方通行になることを少しでも防ぐことを目指している。こうした practice / feed-back を授業に導入するに当たっては、Teaching Assistant 制度を有効に活用し、学生からの回答のきめ細かな分析を心がけている。 ・ 集計した practice の内容ならびに feed-back 資料等をはじめ、授業に関する配布・提示資料は、授業時間内に紹介できなかった分も含めて、授業に関するホームページに一括してアップロードしている。そのことによって、受講生はいつでも授業に関する資料を閲覧できる。 ・ 授業の際には基本的に教材提示装置とパワーポイントを併用してプレゼンテーションを行なっている。受講生には毎回の講義内容をまとめたレジュメを配布する。こうした措置によって、学生の授業理解を高めることが期待でき、授業時間内の口頭説明に集中できる環境が確保できる。また独自に編集した映像資料等を活用し、学生たちが具体的なイメージを持ちながら抽象的な議論を理解できるように心がけている。 <p>毎回ごとの授業で配布する自己作成したレジュメ</p>
2 作成した教科書、教材、参考書	2000年4月～ 2002年1月 2004年6月	<p>阿部潔・石田淳『ダイアログで学ぶ基礎社会学』関西学院大学出版会</p> <p>阿部潔・難波功士（編）『メディア文化を読み解く技法』世界思想社</p>
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項		特になし

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 安藤文四郎	大学院の授業担当の有無（有）
------------	----------	-------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2005年4月～	<ul style="list-style-type: none"> ① 講義では、学生の理解を助け、また授業をスムーズに進めるために、必要と思う範囲で教材・参考資料を作成し、授業開始時に配布している。 ② 同様に、学生の理解を助け、また授業をスムーズに進めるために、可能な場合にはビデオ教材も利用するようにしている。 ③ 基礎演習を含めて、ゼミでは、毎回の発表の中でディスカッションのテーマ(問題)を2つ程度考えてこさせる。その中から1つを選んで(不十分な場合には私が補足して)、ミニレポートの課題とし、電子メールで提出させている。次回の授業で、レポートの内容に関してコメントする。
2 作成した教科書、教材、参考書		特になし
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		特になし
4 その他教育活動上特記すべき 事項		特になし

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 助教授	氏名 池埜 聡	大学院の授業担当の 有無（無）
------------	-----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2003年4月 2005年4月	社会福祉援助技術現場実習の関連講義科目の改変(実習入門、実習計画、実習指導)にともなう実習計画書の内容および書式策定 「社会福祉学特論C:被害者支援ソーシャルワーク」実践者(元児童相談所ソーシャルワーカー)とのジョイント・セッション方式による講義(大教室・受講生約200名)の開講。プライベート保護のもと、お互いの担当ケースを紹介しながら、二人の教員が互いに質疑応答を学生の前で展開し、そのディスカッションに学生が参加する形で講義を構成。二人の教員と学生というトライアングルのダイナミックスの中で、被害者支援の価値教育を展開。
2 作成した教科書、教材、参考書	2004年7月 2005年4月	酒井肇・酒井智恵・池埜聡・倉石哲也「犯罪被害者支援とは何か:附属池田小事件の遺族と支援者による共同発信」ミネルヴァ書房 安保則夫・細見和志・武田丈・池埜聡(編著)「クロスボーダーからみる共生と福祉:生活空間にみる越境性」ミネルヴァ書房
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等	2001年3月	池埜聡「かけだし教員の試行錯誤:社会学部社会福祉学科開講『性格発達論A/B』の場合」関西学院大学総合教育研究室(編)『こんな授業をしています:関学における事例集』(p. 30-34)
4 その他教育活動上特記すべき 事項	2001年4月 2004年8月 2003年3月 2004年3月 2004年3月 2005年3月	社会福祉援助技術現場実習のための「実習マニュアル」作成 社会福祉援助技術現場実習における不応学生への心理・教育的支援とその方法論に関する考察(学生の生育歴での家族内葛藤のクライエントへの投射および不適切な援助関係への介入)=実習指導要綱への反映 (社会福祉学研究演習[ゼミ]受講生 卒業論文受賞歴) 高柳奈生・辻尾佳澄 安田賞最優秀論文賞受賞 村井琢也・藤之原綾・宮崎順子 安田賞優秀論文賞受賞 宮田有紀子 安田賞優秀論文賞受賞 山田真奈美 安田賞佳作論文賞受賞

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 助教授	氏名 打樋啓史	大学院の授業担当の有無（無）
------------	-----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2000年4月 ～2005年6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多人数のクラスで学生の理解度をつかむことが難しいため、学期中に5回程度授業の最後にコメントを提出させている。その次の回の授業でいくつかのコメントを紹介したり、質問に答えることで授業内容を思い出させると共に、学生からの要望にできる限り応えるようにして、授業の改善を心がけている。 ・ 講義内容に関連のある新聞記事、図や写真、映像や音楽などを多用し、抽象的なテーマをなるべく学生の身近な関心事に結びつけて説明し、理解してもらえよう努めてきた。
2 作成した教科書、教材、参考書	2000年4月 ～2005年6月	自己作成したレジュメ
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき 事項		

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 大谷信介	大学院の授業担当の 有無（有）
------------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2005年3月	*研究演習Ⅰ・Ⅱおよび社会調査実習Ⅰ・Ⅱで実施した調査研究と卒業研究の成果を毎年調査報告書として7年連続して出版している。 大谷信介編『ニュータウン住民の住居選択行動と生活実態:「関西ニュータウン比較調査」報告書』関西学院大学社会学部大谷研究室(200p)
	2004年3月	大谷信介編『国勢調査の多角的分析～日本最大の全数調査の実態と問題点』関西学院大学社会学部大谷研究室(200p)
	2003年3月	大谷信介編『市民意識調査の調査票分析～大阪府44市町の課題』関西学院大学社会学部大谷研究室(188p)
	2002年3月	大谷信介編『「これでいいのか市民意識調査」の舞台裏』関西学院大学社会学部大谷研究室(167p)
	2001年3月	大谷信介編『市民参加とパーソナルネットワーク～芦屋市政モニター聞き取り調査報告書』関西学院大学社会学部大谷研究室(174p)
	2000年3月	*大谷信介編『都市住民の居住特性別パーソナル・ネットワーク～4都市居住類型別調査報告書』関西学院大学社会学部大谷研究室(196p)
	1999年3月	大谷信介編『情報の共有と友人ネットワーク～5大学友人実態調査報告書』関西学院大学社会学部大谷研究室(196p)
2 作成した教科書、教材、参考書	2005年2月	社会調査論のテキストを出版し、現在全国66以上の大学で教科書として採用されている。初版(13刷24200部) 第2版(2刷9000部) 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武編著『社会調査へのアプローチ～論理と方法(第2版)』ミネルヴァ書房 2005年2月
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等	2004年3月	*社会調査論の習得度を測定可能なマークシート試験問題を開発したさらに汎用性のある試験問題とする工夫をおこなった。 *海外の大学でどのように社会調査が教育されているかを調査し、イギリスサリー大学・カナダトロント大学・オーストラリアマッコーリ大学の実情をまとめた。以上の研究成果は以下にまとめられた。 大谷信介編著『実践的社会調査教育方法構築のための実証的研究』平成12～15年科学研究費[基盤研究(B)(1)]研究成果報告書(190頁)
4 その他教育活動上特記すべき 事項	2002年10月	*2001年度のゼミ生(4年生22名・3年生30名・大学院生1名)が執筆した本がミネルヴァ書房より出版された。 大谷信介編著『これでいいのか市民意識調査～大阪府44市町村の実態が語る課題と展望』ミネルヴァ書房 この出版に対して、ゼミ生全員が「社会学部長賞特別賞」を受賞した。

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
社会学部	教授	大村英昭	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 形式はA、B各々にテキストを指定し、1クラス(250~300名)を大教室の講義形式で行なう。あらかじめ出席は採らない旨、宣言するので、毎回の出席率と期末のテスト結果が、自ずから授業評価になると考えた。2005年4月からは再び2人体制に戻ったわけだから、比較評価してもらおうというだろう。	2003年4月から 2005年3月の 2年間	社会学科学生にとっての必須科目(基礎社会学A・B)。 従来は、A、Bを二人の教員で担当していたが、これでは2クラスに分けた場合、春学期にBをとらざるを得ないクラスが出来てしまう。つまり、もしAをもっともベーシックなところ、Bを、やや進んだ応用面に、とふり分けたとしても、A→Bのように順にいけないクラスができてしまうわけだ。それで、A、Bとも私一人で担当する試みを2年間やってみた。週に2コマをやることになるが、春学期は2クラスともA、秋はBという形にできた。成果は、研究演習の各担当者に判定してもらうしかないのだが……。
2 作成した教科書、教材、参考書 ①全社会学部学生に(無料)配布できるマンガ本、『早わかり社会学―“見れば見るほどIMADOKI”―』を作成。 ②大村のほか、宮原浩二郎、名部圭一編で『社会文化理論ガイドブック』をナカニシヤ出版から刊行した。 ③放送大学特別講義(テレビ)「社会調査の最前線」を主任講師として作成した。 ④同じく放送大学専門科目『人間科学の可能性』の中で、第7章「人間が信じる宗教」を担当。テレビ教材とテキスト作成をした。	2005年3月刊 2005年6月刊 2005年4月完成 2003年4月刊行	全5話から成るマンガであるが、各話末尾に簡潔な解説文をつけた。 ※現在、各ゼミ担当者に学生による(評価)感想文を集めてもらっている。 名著と言われた『命題コレクション社会学』(筑摩書房)を、さらにわかりやすくリニューアルしたような内容で、社会学部教員の多くに協力執筆してもらった。 文字通り社会調査の最前線を各々、郵送アンケート調査、電話調査、インターネット調査の第一人者が解説。加えて、国際比較調査について、本学の真鍋教授に出演していただいた。 中島義明・太田昭彦『人間科学の可能性』の一コマである。テレビ画像のほうは演習ゼミなどにも活用できて好評である。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2003年11月	2003年11月に正式に発足した「社会調査士」資格認定機構に、準備段階から積極的に参画。発足後は、関西学院にその事務局を誘致し、現在も財務担当理事として、'08年4月を目途に計画中の公益法人化を目指し、各方面への働きかけを行なっている。
4 その他教育活動上特記すべき事項	2005年5月	「愛・地球博出展委員会」からの依頼で、'05.5.2「地球市民村」にて、国際シンポジウム「自然と多様な民族のスピリチュアリティ」にパネリストとして参画。 ※KBS京都放送「比叡の光」にて、一部は公開された。

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 助教授	氏名 大和三重	大学院の授業担当の 有無（無）
------------	-----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ・ 社会福祉援助技術演習における、コミュニケーション・ラボの使用。カメラで撮影した映像を学生と分析、ロールプレイによる対人援助技術の向上 ・ 研究演習Ⅰ・Ⅱにおける学生への学外研修への参加促進 ・ 社会福祉援助技術現場実習におけるグループおよび個別指導 ・ ミクロメソッドBにおける参加型学習のとりくみ	2000.4～ 2002.4～ 2000.4～ 2004.4～	授業の最後に学生によるクラス評価実施 各回のワークを行った後、ふりかえり用紙記入による学生の自己洞察の促進 学外での研修や、実践現場での学びの促進 現場実習をはじめとする一連の実習関連科目において、各々の学生に対し、必要に応じてグループおよび個別の面接、指導を実施。 少人数グループに分け、グループワークの実際を体験により学習する機会の導入
2 作成した教科書、教材、参考書 ・ 自己作成したレジュメ ・ 『高齢者福祉概論』 ・ 新版『高齢者福祉』 ・ CD版『高齢者福祉概論』	2000.4～ 2002.4 2002.7 2005.2	グループワークに関する知識、技術、価値 高齢者福祉の概要 高齢者福祉の概要 CDによる視覚教材
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 ・ 500人委員会板宿会 ・ 神戸市灘区福祉部 ふれあいのまちづくり協議会福祉部会 ・ NPOサポートセンター灘・つどいの家監事 ・ 宝塚市介護支援専門員研修 ・ 神戸市シルバーカレッジ ・ 宝塚市第一地区事例研究会 ・ 神戸婦人大学 ・ 宝塚市ケアプラン指導研修チーム委員長 ・ 神戸市職員人材開発センター ・ 川西市介護支援専門協会 他	2000.9 2001.2～2002.3 年1回 2001.5～2005.7 2001.7～10 2002.5～年1回 2002.10～ 2002.9～ 2003.10～ 2003.11 2004.3	「地域の人の輪づくり」ワークショップ講師担当 「地域福祉活動の担い手として」講演担当 計3回、「地域福祉の担い手として」ワークショップ講師担当 「スーパービジョンの理論と実際」研修担当（講義及びワークショップ） 講座「共に生きる共に学ぶ ～グループワークへの誘い」担当 事例研究会のコメンテーター担当 講座「社会福祉とは」「高齢者福祉論」担当 宝塚市ケアプラン指導研修において、ケアマネジャーの提出するケアプランを指導 人権問題職場研修推進者専門研修「高齢者の人権」担当 「ケアマネジャーのエンパワメント」ワークショップ講師担当

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 岡田弥生	大学院の授業担当の有無（有）
------------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2000年4月～	<p>語学の授業が中心であるが、一貫して大学らしい内容重視の授業を心がけている。そして学生の学力向上のために具体的な方策として以下のようなことを実践している。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 定刻の5分前には教室に行き、定刻に授業を開始している。 * また学生の習熟度を図るため、始業直後に主に前回の授業に関する小テスト実施している。学生は早くから着席して学習する態勢がとれている。遅刻防止にも功を奏している。 * 授業は単調にならないように教科書以外にも英字新聞などを取り入れ幅広い視野を養うことを目指している。 * 必ず一度は指名をする。授業中に居眠りをするものはいない。 * 間違いを恐れないよう緊張感の中にも常に優しく接するよう心がけている。授業評価によると学生の満足度も高い。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2001年3月	関西学院大学オープンキャンパスにて『英語学習について』講演
4 その他教育活動上特記すべき事項	2005年4月～	関西学院大学生涯学習委員会委員（言語教育研究センターより選出）

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
社会学部	教授	奥野卓司	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2003年4月 ～現在	・「情報社会学」「情報産業論」の講義に使用したパワーポイント・ファイルはすべて、教員の個人ホームページにアップし、学生がいつでもどこでも参照し、学習できるようにしている。		
	〃	・上記講義においては（社会学部屋上に設置した全世界の衛星放送が受信できるアンテナ・システムによってビデオ収録し）アップトゥデイトな映像を利用している。		
	〃	・上記講義においてはフィールドワークで撮影したビデオ、画像および現地で購入、収集してきたビデオを利用して、学生の理解に役立っている。		
	〃	・ゼミ（3年、4年、大学院）は、それぞれ学生たちにホームページ作成を指導し、ゼミ内容の紹介、連絡などを行っている。		
	〃	・上記のゼミは、それぞれ学生・教員間のメーリングリストを構築し、学生への連絡の他、演習時間外の質疑応答を行っている。		
2 作成した教科書、教材、参考書	2004年12月	・『日本発インターネット革命…アジアに広がるジャパングル』(岩波書店)を刊行、教科書としている。		
	2005年3月	・学部研究会予算により、大村英昭教授とともに『マンガ 社会学入門』を作成し、2005年度から「基礎演習」などの教科書として利用して、論文を読まない学生に、マンガで社会学の基礎的概念を理解させるようにした。		
	2003年4月 ～現在	・教員が新聞などに執筆した評論をコピーして、学生に配布している。		
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等	2005年1月	(社)私立大学連盟の広報誌である『大学時報』の300回記念号に掲載された座談会「大学改革…教育現場からみた現状と展望」で、自らの教育方法や大学教員のありようについて発言、討論した。		
	2000年11月 2001年11月 2003年11月 2004年11月	関西経済同友会「サイバー適塾」で、社会人の大学院通学希望者に対して社会学が企業活動にも役に立つことを講演した。他、講演活動多数。		
	2003年3月 2004年3月 2005年3月		神戸市男女共生参画課の「婦人大学」において「情報社会」を担当。(他、京都市、大阪市、兵庫県などの「市民講座」を担当)	
	2000年～現在			関西経済同友会の企業人向け大学院講座「サイバー適塾」の運営企画委員を担当。また、講座を一つ担当して、講義およびゼミを運営している。
	2005年4月			本学情報メディア教育センター長に就任。全学の情報リテラシー教育、eラーニングの企画運営管理を担当している。
4 その他教育活動上特記すべき 事項	2005年6月	(社)私立大学情報教育協会の理事に就任。全国の私学の情報教育に関して、文科省との関係のもとに、振興のための運営に参画している。		
	2000年～現在	京都大学、京都工芸繊維大学、滋賀県立大学などで「情報人類学」などの科目を、非常勤講師として担当している。		
	2003年10月 ～現在	「愛・地球博」の「NGO・NPO地球市民村」プロデューサーとして、市民への「情報・環境」広報教育活動を行っている。		

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 川久保美智子	大学院の授業担当の有無（有）
------------	----------	--------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>総合教育研究所実施の授業評価を実施している。</p>	毎年2回学期末	アンケート（マークシートおよびオープンアンサー形式）による授業評価を実施しその結果をフィードバックしていただき、授業の参考にしています。
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>組織論抗議ノート</p> <p>『日本・中国・アメリカ』</p> <p>『女子大生・OLの職業意識』</p>	<p>2000年3月</p> <p>2002年1月</p> <p>2004年7月</p>	<p>組織論Aの講義内容をまとめて講義ノートを作成した。</p> <p>3か国の働く者の意識をアンケート調査しその結果をまとめた。</p> <p>日中の女子大生と社会人女性の職業意識を比較した。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>工場見学</p> <p>ゲストスピーカー</p> <p>社会調査実習</p>	<p>毎年2回</p> <p>毎年2回</p> <p>毎年</p>	<p>会社研究の研究演習の一環として現場の工場を見学する。</p> <p>社会で活躍している方に講演していただいている。</p> <p>社会調査士の資格を取るための調査実習をしている。 アンケート調査票を作成し、データを収集し、SPSSを利用して、データの入力および分析をしてその結果をまとめてレポートを作成する。</p>

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
社会学部	専任講師	川島恵美	有無（無）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） 「ヒューマンサービス演習」におけるラボラトリー方式による体験学習プログラムの展開 「研究演習Ⅰ」における二十歳のころプロジェクト 「社会福祉援助技術演習」におけるマルチメディア機器使用した援助技法の学習プログラムの展開 「社会福祉援助技術現場実習」「社会福祉アドバンスト実習」「精神保健福祉援助実習」における学生への指導、対応の体制	2000年 4月～	社会福祉実習教育課程の第1段階として位置づけられる本科目において、①自己理解を深め、対人感受性を養い、専門職アイデンティティに向けた価値の明確化を行うこと、②体験的を通して学ぶという学び方の意味と方法を理解するという二つのねらいを達成するためにラボラトリー方式の体験学習法によるプログラムを作成し、少人数に分かれたクラスで複数の教員が同時に同じ内容で実施できるようにしている。
	2001年 4月～	対人援助技術としてのさまざまなコミュニケーションスキルを学ぶゼミにおいて、「人の話をしっかり聴く」体験の総まとめとして、ゼミメンバーが自分で選んだ相手に「二十歳のころ」についてのインタビューを行い、テープを起こして編集し、最終的に1冊の本にまとめるもの。学生の主体性、社会性、傾聴のスキル、対人関係力、編集能力、要約力など総合的なトレーニングの機会としている。
	2000年 4月～	コミュニケーションラボと呼ばれる、ビデオ機器、DVD等のメディア機器を活用して、モデル映像の視聴、ロールプレイング等の録画とフィードバックなどを行い、体験的かつ実践的な援助技術習得を目指したプログラムを実施している。
	2000年 4月～	実習関係の科目においては、基本的にすべて学生一人ひとりとかかわり、学生の適正、動機、希望などを考慮した実習配属を行い、実習先との折衝、挨拶、巡回訪問、さらに必要に応じてのトラブルシューティングやメンタル面でのサポートなど、きめの細かい個別対応により、充実した実習体験ができるように体制を整えている。
2 作成した教科書、教材、参考書 「ヒューマンサービス演習」 「研究演習Ⅰ」	2000年 4月～ 2001年 4月～	授業1回につきひとつのワークを効果的に実施するためのワークシート、ふりかえり用紙を作成。 「川島ゼミ版・二十歳のころ」、「川島ゼミ版・二十歳のころ 02」、「川島ゼミ版・二十歳のころ 03」いずれも関西学院大学出版会
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等 （特になし）		
4 その他教育活動上特記すべき事項 神戸市社会福祉協議会市民福祉大学 ヒューマンサービスコース講師および研究会代表 援助者を目指す学生向けTグループ ヒューマンコミュニケーションラボラトリー	2000年 4月～ 2000年 9月～	市民およびヒューマンサービス系職員を対象とした「ヒューマンサービスコース「他者とつながり自分を知るコース」および「対人援助のスキルを高めるコース」のカリキュラム整備および講師のコーディネート、研究活動を行うっている 対人援助職を目指す学生を対象とした集中的グループトレーニングを企画、トレーナーとしてかかわるほか全般的な運営、トレーニングで得られたデータを使った研究を実施している。

インターカレッジ西宮 大学共同講座	2000年 6月	「共生」を共通テーマとした大学共同講座の一環として、米国におけるピア・カウンセリングシステムの事例を紹介しプロダクティブエイジングについて講演を行った。
ひょうごオープンカレッジ関学Bコース 「くらしと福祉 質の高い豊かな人生」	2001年 11月	5日間のコースの第4日目に一日のワークショップを担当。それまでの3日間の講義やディスカッションを受けて、参加者一人ひとりの生活課題の整理、その課題への対応をグループで出し合うワークのファシリテーターを務める。
(財)生協総合研究所「子育てひろば」スタッフ 研修セミナー	2002年 9月～ 2005年 3月	生協として地域における子育て支援ネットワークの形成を図る「子育てひろば」を展開するための企画、運営ができる人材養成のための研修事業に参画した。
兵庫県社会福祉士会 兵庫社会福祉セミナー	2003年 10月	セミナーの分科会として演習形式で「利用者の価値観に沿った支援を行うための援助技術」を担当。
第2回地域見守り支援者 全市専門研修会 分科会(神戸市保険福祉局)	2004年 2月	「高齢者に対する個別援助技術について」演習と講義を行う
関西学院大学春季オープンセミナー 「子供の『いま』を考える：現代社会における現状、課題、支援」	2004年 7月	「今どきの子育て事情と子育て支援～ひろば型支援の可能性～」のテーマで講義を行う

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
社会学部	教授	久保田 稔	有無（無）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ① 「マルチメディア機器の活用」 ② 「問題演習」を適宜実施 ③ 「勉学機会の増大」 ④ 「専門家、実務家をゲストに加えた	1997年4月～	① 科目内容が、広範であることから、ビデオ、DVDなどの視聴覚教材を利用し、内容の理解がしやすくなるようにした。その際も、口頭での説明と視聴覚教材のバランスを工夫し、学生が、講義に集中できるようにした。 ② 国家試験の問題演習などを講義に取り入れた。学生が習得すべき内容の目安のひとつを知ること、学生が知識を確認できること、理解を深めることができることなどの、効果があった。 ③ 授業内容と関係のある公開講座などを紹介し参加をうながし、学生の勉学機会を増やすようにした。 ④ 内容にあわせたゲストを交え講義をすることにより、専門性、現実性、最新性をそなえた内容で教育する。
2 作成した教科書、教材、参考書 ① オリジナルレジュメを毎回配布 ② 写真、図を取り込む ③ 著書の紹介	1997年4月～ 2002年4月～ 2004年6月	① 毎回、レジュメを配布。内容には、基本的事項に加え、トピック的な事項を加え、学生が内容を身近に感じるようにした。 ② パワーポイントをもちい、写真、図などを取り込んだ教材を作成した。 ③ 参考書 「合併症を未然に防ぐ糖尿病の治療とケア」（医学芸術社）を監修した。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 ① 大学生のための公開講座を開催 ② 市民公開講座を開催 ③ 医療関係者を対象とした講演	2004年6月 2005年3月	① 大学生向けの公開講座「～大学生と考える～バイオと医療」をコーディネータとして開催（関西学院会館、2004年6月14日） ② 市民公開講座「のぼそう健康寿命」をコーディネータとして開催（千里ライフサイエンスセンター、2005年3月6日）

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 Ruth M. Grubel	大学院の授業担当の有無（無）
------------	----------	----------------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>In all classes, from large to small, I try to receive feed back and participation from the students</p> <p>Seminar in International Affairs</p> <p>Political Sociology A & B (~50 students each class.)</p> <p>政治社会学A & B</p>	<p>1999-present</p> <p>1999-present</p> <p>2001-present</p>	<p>The last 30 minutes of each class is devoted to small-group discussion of the day's topic.</p> <p>Students are often required to write 1-page reports to serve as the basis for these discussions.</p> <p>Students write a short report on a current news story related to the day's topic, and these are discussed in the small-groups.</p> <p>Twice each semester, presentations of student reports are made in groups of 5-6 people who each present and ask questions of each other.</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>I write all my class materials in English; even those for classes I teach in Japanese</p>		
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>I also teach classes in the Japan and East Asia Studies Program</p>	<p>2000-present</p>	<p>These classes are primarily for exchange students, but regular Japanese students can also register for them, if their English ability is adequate.</p>

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 高坂健次	大学院の授業担当の有無（有）
------------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>いずれも「数理社会学」を担当した。受講生が少なかったので(2001年度は20人以下、2002年度と2003年度は5人以下)、ほとんど毎回宿題を提出させてそれに丁寧なコメントを付して、指導した。</p>	<p>2001年10月 ～2002年1月</p> <p>2002年10月 ～2003年1月</p> <p>2003年10月 ～2004年1月</p>	<p>数理社会学の授業は、数理モデルの解釈、改善、導出について、実際に演習的要素を取り入れることが最大の教育効果をあげることが経験的に分っている。そのために、授業では各種の数理モデルを紹介するとともに、宿題を提出させ、その答案に対してコメントを加えていくように腐心した。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>特別に作成したものはない。</p>	同上	
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>特になし。</p>	同上	
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>数理社会学にとって妥当な数学教育について資料を収集し、担当者のあいだで検討を加えた。</p>	同上	

注) 2000年度は学部長就任による減担措置のため、授業を(研究演習以外は)担当しなかった。2004年度、2005年度は21世紀COEプログラム拠点リーダー就任による減担のため、授業を(研究演習1ないし2コマ以内)担当していない。なお、2005年度の「研究演習I」においては、授業開始早々に問題意識の涵養のため興味深いビデオを見せたり、読書案内にそった文献の現物を大量に見せて、勉学への意欲が高まるよう、工夫している。大学院の「研究演習」については、「塾」というかたちで毎回長時間にわたる研究指導・論文指導を行ってきている。

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 紺田千登史	大学院の授業担当の有無（無）
------------	----------	-------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2005年4月～	フランス語文法I、フランス語読本I、フランス哲学、思想講読演習についてはそれぞれ三回の復習テストを実施した。哲学演習についてはテキストの既習箇所について三回のレポートを提出させている。
2 作成した教科書、教材、参考書		秋学期の哲学講義Bに使用する資料としてA4にして40枚程度のプリントを用意している。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		関西学院大学出版会より7月に刊行予定の拙著『フランスの哲学—そのボン・サンスの伝統と日本・アメリカ』に哲学講義Bで取り上げてきた日欧の近代化の比較研究の一端を「二人の近代人—デカルトと漱石」として取り上げている。
4 その他教育活動上特記すべき 事項		特になし

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 芝田正夫	大学院の授業担当の有無（有）
------------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>・ 演習での工夫</p> <p>・ 講義での工夫</p>	<p>2005年4月～</p> <p>2005年4月～</p>	<p>ゼミ生に対して、たびたび小テストをおこない、知識習得が確実に進んでいるかを確認している。</p> <p>関連するビデオをうつし、又、現物資料のコピーを映写することにより、理解が深まるよう工夫している。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の出版と使用</p>	<p>2000年10月～</p>	<p>自書である「新聞の社会史」を講義のテキストとして使用している。テキストとしても使用できるよう、年表や参考文献一覧をつけている。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		<p>なし</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>市民講座の担当</p> <p>学外委員</p>	<p>2004年9月</p> <p>2004年12月</p> <p>2003年11月 ～2005年11月</p>	<p>吹田市立図書館の「図書館使いこなし講座」の講師を担当した。</p> <p>関西学院大学秋季オープンセミナーの公開講座「関西のメディア、日本のメディア」を担当した。</p> <p>吹田市立図書館協議会の会長をつとめている。</p>

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 芝野松次郎	大学院の授業担当の有無（有）
------------	----------	-------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>2000年度より研究演習Ⅰにおいて無線 LAN による情報リテラシーの育成を行い、演習成果をパワーポイントなどのメディアによって報告させ、評価している。</p>	2000年～	
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 『ソーシャルワークの実践モデル』 分担、有斐閣</p>	2005年5月	
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等 なし</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 居樹伸雄	大学院の授業担当の有無（有）
------------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>教育方法の工夫の例として、従前より、各科目の終了時に「授業に関する感想」をアンケートしており、授業改善の参考としてきている。</p>	<p>2000年4月 ～ 2005年3月</p>	<p>(講義科目について) 学生の関心をより高め、理解を深めるために、時折、新聞のトピック記事を取上げたり、演習問題を素材とするとともに、毎回の授業のはじめに、前回の授業のポイントを説明している。</p> <p>(演習科目について) ゼミ形式の授業では、ビデオ教材などを活用し、視覚的な面も含めて、授業内容の理解を深めさせるようにしている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 (講義科目について)</p> <p>シラバスに基づき、自己作成したレジュメを使用</p>	<p>2004年4月 ～ 2005年3月</p>	<p>(例示) 講義科目「現代労働論A」(第9回) テーマ: 日本的雇用慣行とそのゆくえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年功賃金から能力主義賃金、成果主義賃金へ ○ 終身雇用(長期安定雇用)と労働の流動化 ○ 企業別組合(欧米は職業別、産業別組合)
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 高田眞治	大学院の授業担当の 有無（有）
------------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>詳細なシラバスと講義資料の作成 授業運営の工夫</p>	<p>2000年4月 ～2005年3月</p>	<p>(例1) 比較的人数の多い講義科目においては、詳細なシラバスを作成し、年間の講義内容と進行について説明する。また図表を中心とした講義資料を策定して配布し、板書の不十分さを補い、学生の理解を促している。</p> <p style="padding-left: 40px;">重要なテーマについては、それについて考える課題を適宜出し、そしてそれをフィードバックしてポイントを確認している。</p> <p>(例2) 少人数の科目においてはできるだけ授業中での対話形式を展開し、また演習を取り入れて学生の理解度を見ながら進めている（この場合もシラバスや資料は作成している）。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>1. 共編著『社会福祉原論』ミネルヴァ書房、2002年</p> <p>2. 単著『社会福祉内発的発展論 これからの社会福祉原論』ミネルヴァ書房、2003年</p> <p>3. 共著『地域福祉援助技術論』相川書房、2003年</p>	<p>同上</p>	<p>1. 社会福祉の基本的な考え方や現状について、学部学生を対象として、教科書として編集したもの。社会福祉士受験資格獲得の教科書でもある。</p> <p>2. 社会福祉論について、ことに今日の改革動向を課題として論じたもの。1のアドバンス的な理論的な著書である。</p> <p>3. 今日社会福祉は地域福祉を中心に進められているが現場の状況にあわせて方法を説明したものがすくない。地域福祉の是として、それを進めるための事例などを含めて具体的な課題と実施方法などについてわかりやすく説明した。演習も取り入れて、さらに理解を進めるようにした。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p> <p>特になし</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>大阪市社会福祉研修／情報センター における講義</p>	<p>同上</p>	<p>毎年2日間、センターにおける社会福祉主事養成の講座を分担している（地域福祉、社会福祉計画論）</p>

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 助教	氏名 武田 丈	大学院の授業担当の 有無（無）
------------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>1) 通年の授業における学生からの授業評価とフィードバック</p> <p>2) 講義ノートのWeb上での公開</p> <p>3) マルチメディア機器を活用した授業</p> <p>4) 体験学習を取り入れた授業</p>	<p>1) 2000年4月～</p> <p>2) 2000年4月～</p> <p>3) 2000年4月～</p> <p>4) 2000年4月～</p>	<p>1) 通年の授業では、春学期の終了の段階で学生に評価を受け、集計結果および対応・改善策を秋学期の最初に学生にフィードバック。これにより学生の学習に対する動機付けを高めるとともに、授業評価への意識を高める。</p> <p>2) パワーポイントを使用した授業では、学生がノートを取りきれないことがあるため、講義ノートをWeb上での公開。事前にプリントアウトすることによって、授業中に教員の説明に集中できる。</p> <p>3) パワーポイントだけでなく、ビデオやCD-ROMを使った授業。また、電子メールによるレポート提出や質問の受付。</p> <p>4) 学生の関心や動機付けを高めるため、座学だけでなく、授業にシミュレーションゲームやロールプレイなどの体験学習を取り入れる。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>1) 『人間行動と社会環境』(平山尚・武田丈著、ミネルヴァ書房)</p> <p>2) 『社会福祉援助技術論(下)』(黒木保博・福山和女・牧里毎治編著、ミネルヴァ書房)</p> <p>3) 『福祉キーワードシリーズ: ソーシャルワーク』(黒木保博・山辺朗子・倉石哲也編著、中央法規出版)</p> <p>4) 『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』(平山尚・武田丈・呉裁喜・藤井美和・李政元著、ミネルヴァ書房)</p> <p>5) 『現代社会福祉辞典』(秋元美世・大島巖・芝野松次郎・藤村正之・森本佳樹・山縣文治編、有斐閣書房)</p> <p>6) 『ソーシャルワーカーのためのリサーチ・ワークブック』(武田丈著、ミネルヴァ書房)</p> <p>7) 『新版社会福祉実践基本用語辞典』(日本社会福祉実践理論学会編、ミネルヴァ書房)</p>	<p>1) 2000年5月</p> <p>2) 2002年6月</p> <p>3) 2002年7月</p> <p>4) 2003年5月</p> <p>5) 2003年11月</p> <p>6) 2004年7月</p> <p>7) 2004年10月</p>	<p>1) 社会福祉実践に応用価値が高い社会学、心理学、人類学、教育額、医学、精神医学などから選別された基礎知識をまとめた。</p> <p>2) 第14章「社会福祉調査法の理論と技術」(pp. 173-204)を担当。社会福祉援助技術の体系の中の間接援助技術にあたる社会福祉調査法の理論と技術を紹介。</p> <p>3) ソーシャルワーク・リサーチ(pp. 176-177)を担当。ソーシャルワーク・リサーチの各技法を用途別に分類し説明。</p> <p>4) 社会福祉調査法の入門書。社会福祉の実践および研究に必要な調査法を包括的に解説。</p> <p>5) 「ソーシャルワーク・リサーチ」、「意識調査」、「評価」、「ロジスティック回帰分析」など15項目を担当。</p> <p>6) ソーシャルワーク・リサーチをわかりやすく、ステップ・バイ・ステップで解説する。</p> <p>7) 「質的調査」と「パネル調査」の項目を担当。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>1) 「社会福祉学科における『ソーシャルワーク・リサーチ』の授業例」(関西学院大学総合教育研究室『こんな授業をしています』、pp.87-90)</p> <p>2) 学会シンポジウム「図書文献: 福祉教育・看護教育に貢献するもの」(日本福祉図書館学会第5回大会、和歌山県立医科大学看護短期大学部)</p> <p>3) 「Towards a Clearer Understanding of the Socio-economic, Socio-educational, and Socio-political Role of Higher Education in Japan」(Alan Brady・Kiyoshi Abe・Joe Takeda・Brent Poole 著、『関西学院大学社会学部紀要』95号、pp. 95-106)</p> <p>4) 「導入教育の方法について(導入教育における「多様性の尊重」についての取り組み)」(2004年度全国社</p>	<p>1) 2001年3月</p> <p>2) 2002年10月</p> <p>3) 2003年10月</p> <p>4) 2004年10月</p>	<p>1) メール、インターネット、パワーポイント、グループ活動などを取り入れた授業例を紹介。</p> <p>2) 北米におけるソーシャルワーク九位区における文献の状況を日本と比較。</p> <p>3) 大学教育において、学生が主体的で積極的に授業の運営や計画に参加することによって、学習の動機付けや学習能力が高まることを議論。</p> <p>4) 「多様性の尊重」に関連する他国での教育例を紹介するとともに、関西学院大学での「国際社会福祉論」、「ヒューマン・セクシュアリティ」、「社会福祉とジェンダー」といったコースでの取り組みについても紹介し、ソ</p>

<p>会福祉教育セミナー、第 34 回(社)日本社会福祉教育学校連盟)</p> <p>5)「関西学院大学ソーシャルワーク・リサーチ I における IT 活用例」(社会福祉学教育 IT 活用研究委員会、私情協)</p> <p>6)関学FDシンポジウム・パネリスト</p>	<p>5)2004 年 11 月</p> <p>6)2004 年 12 月</p>	<p>ーシャルワーカー養成のための導入教育における「多様性の尊重」の重要性を指摘。</p> <p>5)関学の「ソーシャルワーク・リサーチ I」という授業における IT 活用例の紹介。</p> <p>6)現役関学生 3 名と教員 3 名が、理想的な大学の授業のあり方を議論。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>1)関学生涯学習委員会委員</p> <p>2)関学社会学部教務副主任</p> <p>3)関学総研カレッジ・コミュニティ研究会委員</p> <p>4)関学総研FDと高等教育プロジェクト研究員</p> <p>5)社会福祉学教育 IT 活用研究委員会委員、社団法人私立大学情報教育協会</p> <p>6)関学総合コース480「ヒューマン・セキュリティ」のコーディネーター</p> <p>7)関学人権研究室研究部会研究員</p>	<p>1)2003-04 年度</p> <p>2)2003-04 年度</p> <p>3)2004 年度-</p> <p>4)2004 年度-</p> <p>5)2004 年度-</p> <p>6)2003 年度-</p> <p>7)2003 年度-</p>	<p>1)エクステンション・プログラムのホームヘルパー・コースの準備、およびオープンセミナーやKGLPのコーディネートなど</p> <p>2)主に社会福祉学科のカリキュラムのコーディネート。</p> <p>3)カレッジ・コミュニティ調査の計画</p> <p>4)大学内のFDに関する研究。</p> <p>5)社会福祉学教育における IT 活用に関する研究。</p> <p>6)この授業の立案及び計画、授業内容や担当講師の調整。</p> <p>7)「グローバル化と人権教育:グローバル化時代の人権教育の課題」に関する研究。</p>

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 田中耕一	大学院の授業担当の有無（有）
------------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>パワーポイントによる授業内容の提示と資料の配布、時事的話題や映像資料の積極的な使用、理解度確認のための小テスト(マークシート)の毎回実施(成績評価と連動)、感想・質問などを記述するペーパーの毎回提出、講義内容のWeb上での公開。</p>	<p>2005年4月～</p>	<p>かねてより(就任時1995年度～)、授業内容については、毎回レジュメを作成・配布し、それにしたがって講義を進めてきた。 2005年度からは、パワーポイントによって、授業内容を提示するとともに、同様の資料を作成・配布することによって、学生の理解度を上げるように努力している。 また、新聞記事や映像資料(テレビ番組やビデオなど)を取り入れることによって、学生の関心を高め、また授業の理解度を高める努力をしている。 授業の最後に、毎回マークシートによる小テストを実施(3～5問程度)することによって、授業内容のポイントを再確認できるとともに、学生の理解度を確認できるようにしている。なお、小テストの結果は、成績評価の一部となるようにしている。 また、同時に、授業の感想や質問、分りにくかったところなどを記述したペーパーを提出してもらい、次回の授業でフィードバックするようにしている。 パワーポイントによる配布資料は、自身のホームページ上で公開しており、やむをえず欠席した場合などは、学生が自分でダウンロードして対応できるように配慮している。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>安藤・児玉編『社会学概論』学文社 児玉編『社会学史の展開』学文社 大村・宮原・名部編『社会文化理論ガイドブック』ナカニシヤ出版</p>	<p>1990年 1993年 2005年</p>	<p>「社会的行為」の章を分担執筆 「コミュニケーションと社会システムの理論」の章を分担執筆 「オートポイエーシス」「コミュニケーション的行為」の章を分担執筆</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 對馬路人	大学院の授業担当の 有無（有）
------------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>「社会学研究演習」における、Eメールを活用した事前学習促進の工夫</p> <p>「社会調査実習」における、Eメールを活用したレポートの添削指導</p>	<p>2005年4月～</p> <p>2004年10月～</p>	<p>「研究演習」での文献輪読において、報告担当者以外の学生に対しても、報告文献について事前に演習担当者にEメールでコメントを寄せるように指導している。参加者全員に事前学習を促し、演習での議論を活発化させる工夫として実施している。</p> <p>「社会調査実習」では、実施した調査の成果について調査報告書としてとりまとめをおこなっているが、そのとりまとめにあたっては、提出された（電送された）個々のレポートについて、内容をチェックし、添削指導のフィードバックをEメールを活用して実施している。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>宗教社会学の会編『新世紀の宗教』 創元社刊</p> <p>「自己作成したレジュメ」</p>	<p>2002年11月</p> <p>2003年9月 ～2004年1月</p>	<p>宗教社会学の講義、ゼミの教科書、参考書として作成。對馬は宗教組織におけるカリスマの制度化を扱った部分を執筆。</p> <p>現代世界における宗教的原理主義、ニューエイジの潮流、グローバル化と宗教などのテーマについて作成。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>伊丹生涯大学における「現代社会と 精神性のゆくえ」講座の担当</p>	<p>2002年6月 ～2003年1月</p>	<p>2002年度伊丹市主催の伊丹市生涯大学社会学科の講座「現代社会と精神性のゆくえ」の講師として、現代世界における宗教性や精神性の表出の諸相について、15回にわたり講義。</p>

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 助教授	氏名 中野康人	大学院の授業担当の有無（有）
------------	-----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>統計学関連科目（「基礎統計学」「社会統計学」）における理解度促進の試み</p>	<p>2002年4月～ 2004年7月</p>	<p>受講生の大半はいわゆる「文系」学生であるため、統計学は「数学」科目として忌避される傾向にある。この点を克服するために、統計学が身近な社会生活で利用できるツールであることを強調し、学生の理解度をつねにチェックするようにした。前者については、その時々新聞・雑誌・テレビなどから統計に関連するもの（選挙予測、犯罪統計、恋愛行動の調査など）を講義中や課題の中で取り上げた。また、初回講義時に受講生に対して調査を行い、そのデータをもとにして統計分析の手法を解説することにより、統計手法によって「何かがわかる」ことを実感してもらった。後者については、毎回感想や質問事項を提出してもらい、次回講義時に質問への回答を行った。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>自己作成したレジュメ、および教科書『社会をくモデル>でみる』、『SPSS事典』 社会の見方、はかり方：計量社会学への招待</p>	<p>2002年4月～ 2004年7月</p>	<p>講義に関しては、内容の要点および練習問題などを盛り込んだレジュメを毎回作成し、配布した。また、教科書は講義時点ではいずれも印刷中であったため、その草稿を資料として利用した。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>なし</p>		

<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>ネットワークを利用した学生との双 方向コミュニケーション</p>	<p>2002年4月～ 2004年7月</p>	<p>講義中の配布物や練習問題の解答などは、すべてネット上でダウンロードできるようにした。また、ゼミなどの小人数科目では、メイリングリストやグループウェアを利用して、課外時にもコミュニケーションがとれるようにした。</p>
---	-----------------------------	---

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
社会学部	助教授	難波功士	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>「現代広告論」「メディア文化史」など担当している科目の特質もあって、多人数履修の講義科目においては、多くの映像や音声資料を提示しながら授業を進めるようにしている。</p> <p>「研究演習Ⅰ・Ⅱ」等、3・4年生向けの少人数演習科目では、つねに学生個々がキャリアデザインを考える作業と、ゼミの内容とを連動させるよう心がけている。</p>	<p>2000年4月～ 2001年3月 (2002年度は 在外研究期間) 2002年4月～ 2004年3月</p>	<p>同じ学部・学科、同じ学年の学生が多く集まる大教室講義においては、いかに私語を鎮静し、学生の興味を90分間ひきつけるかが重要な課題となってくる。動画・静止画等の映像や各種音源の提示を適宜はさみこむことは、学生の集中力を高め、維持することに大いに役立つ。しかし、漫然と映像を垂れ流すだけでは、時として逆効果となる。「百聞は一見にしかず」は真理であるが、「一見」を「一見」に終わらせず、「百聞」へと繋げていくこと。面白おかしい授業ではなく、面白く興味深い授業、以後の自学・自修へと繋がる授業を心がけている。例年、定期テストの場合、2割以上を不可にしているが、コンスタントに300～500人の履修登録者(2年生以上に配当の選択科目であり、他学部生の履修が制限されているにもかかわらず)があり、また出席をとらないにもかかわらず、履修登録者の半数程度以上の出席は、学期末まで維持されており、自身の講義の方式・内容は、学生に支持されていると考えている。ここ数年、希望する教室が割り当てられず、学生から「臭い」「空気が悪い」「蒸し暑い」「雰囲気暗い」などの苦情がだされる教室で、リージョンフリーのDVDデッキもなく、ましてやPAL対応のビデオデッキもなく、かつDVD-RAMに対応できていないような講義環境の中、よく健闘していると自己評価している。</p> <p>ゼミでの活動が、自分の将来にどのような意義を持っているのか。学問とは理屈抜きに高邁なものであり、頭ごなしに「〇〇をやれ」と言ったところで、学生たちが納得するような時代ではない。本を読むこと、人の話を聞くこと、議論をすること、論理的な文章を書くこと、人前で発表することの効用を、「進路の選択と到達」という観点から、つねに学生に対して説明するようにしている。また、社会学部の場合、2年の秋に所属ゼミが内定してから翌春のゼミ開始まで空白期間が生じがちだが、ゼミ内定者が決まった段階ですぐさまメンバーリストを立ち上げ、定期的にゼミ通信をアップしながら、学生たちに残された2年間で何をし、それを将来にどうつなげていくかを早期に考えるよう促している。着任以来、ゼミ選考の倍率は、つねに2～4倍で推移しており、こうしたゼミ運営のやり方は、学生に支持されていると思う。また2年を経て、社会に出て行く際の、ゼミ生に対する社会からの評価も、相対的に高いものとなっている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>・自己作成したレジュメを使用。</p>	<p>同上</p>	<p>講義形式の授業においては、一回の講義毎に、両面コピーのレジュメを1～2枚配布するようにしている。A4で4～8枚程度の情報を受講者に共有させた上で、それを逐次的に迫うのではなく、適宜参照させながら、画像・映像・音源等の資料も活用しながら授業を進めるようにしている。なお、このレジュメは、毎年改訂をしている。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>・若干の社会教育活動や高大連携に関する実績がある。</p> <p>また、非常勤講師の依頼・交渉・スーパーバイズなどにも関わり、本学の教学に寄与している。</p>	<p>同上</p>	<p>社会教育活動としては、日本スコットランド協会関西支部での講演「映画に描かれたスコットランド」(2003年12月6日、於：サントリー山崎工場)や各種取材対応など。</p> <p>高大連携事業に関しては、直近では2005年6月11日に兵庫県立小野高校において模擬授業を行った。過去には、関学高等部・啓明学院・兵庫県立六甲アイランド高校などの生徒に対して模擬授業を行った経験がある。</p> <p>非常勤講師の依頼に際しては、優秀な若手の発掘・登用によって、社会学部の専任教員だけでは対応しきれない領域を埋め、学生の興味・関心にこたえるようにしてきた(たとえば、映画学(フィルム・スタディーズ)、ビジュアル・カルチャー研究、ポピュラー音楽研究、マーケティング・セオリー、同実習などを担当可能な人材を招聘してきた)。</p>

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 助教授	氏名 野瀬正治	大学院の授業担当の 有無（有）
------------	-----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） ① インターネットを利用したデータ活用・事例研究およびデータ処理	2001年4月 ～現在	インターネットを利用することにより、新鮮なデータを容易に取得できるので経済産業省、厚生労働省や総務省などのデータベースから人事・労務に関わる情報の取得方法を教え、実際にそのデータを利用して、目的に沿ったデータ処理も行えるように教育指導している。
② Eメールを利用したゼミ授業のフォロー	2001年4月 ～現在	ゼミ生に授業終了後にEメールで次回使用する資料を配信するとともに、当日の授業についての補足コメントを配信している。積極的なゼミ生は質問を返信してくるので、それに応じてさらに指導している。
③ パワーポイントを利用した講義	2001年4月 ～現在	パワーポイントで作成した資料を利用することにより、講義における重要点を分かりやすく学生に理解させることに努めている。また、関連する項目の説明において、短時間に要領よく、学生が本来の講義を見失うことなく理解できるようにしている。
④ ケーススタディを利用した演習	2001年4月 ～現在	ゼミでは、単に知識の修得だけでなく、ケーススタディを利用して経営の視点から人事管理について、判断や思考ができるように取り組んでいる。
⑤ 経営シミュレーションゲームを利用した演習	2001年4月 ～現在	人事管理を含めた経営各論の知識を経営の実践で活用できることを目指し、経営シミュレーションゲームを利用して、模擬カンパニーをゼミ生に編成させたうえで取り組ませている。こうした実践をとおして、意思決定のあり方や組織とメンバーについても多角的に検討をさせることを同時に行っている。
⑥ ゲストスピーカーを交えての講義	2001年4月 ～現在	実際の経営などを現場からの発想で学生に理解させるために、第一線の経営者やシンクタンク研究員を交えて講義を行うことにより、一般的な理論だけでなく、経営の実践についても合わせて教育指導している。
2 作成した教科書、教材、参考書 ① 労働省認定ビジネスキャリア講座テキスト『人事労務』（住友ビジネスコンサルティング）	1994年4月 ～1995年3月	厚生労働省認定ビジネスキャリア講座テキストの作成および講義の実施。主な内容は、人事労務管理概要、就業管理、労働基準法、労使関係、福利厚生、安全衛生、についてである。
② パワーポイント用教材1； 『人事労務管理の思想』	2001年4月 ～現在	パワーポイントを利用して人事労務管理の思想を講義する際の教材で、学生の理解を高めるのに効果的である。一般に思想についての講義は分かりにくいことが多いが、図表を利用することにより、学生に分かりやすくポイントを伝えることができ、また重要な Key word を学生に認識させるのに効果的である。

③ パワーポイント用教材 2 ; 『人的資源管理』	2001年4月 ～現在	<p>パワーポイントを利用して人的資源管理を講義する際の教材で、図表などにより体系的に理解をさせることができ、また必要に応じていつでもフィードバックや基礎的事項の反復説明をすることができ、学生の理解を高めるのに効果が上がっている。</p> <p>特に、必要な新鮮なデータをグラフとして提示できる点は、実際の企業の現状を学生に伝えるのに効果的である。</p>
④ パワーポイント用教材 3 ; 『Business Ethics』	2001年4月 ～現在	<p>パワーポイントを利用して、Business Ethics を講義する際の教材である。同テーマは、企業倫理の思想や各国との比較、企業の取り組み、実社会での事件など、多岐に渡る範囲からのアプローチをするテーマである。口頭での説明をパワーポイントにより補完していくことは、学生の理解を高めるのに効果的である。また、毎年のように新たなケーススタディ（今年は三菱自動車）の事例があり、それを素材に講義を進める際にも非常に効果的である。</p>
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等	—	—
4 その他教育活動上特記すべき 事項 講義対象に社会人も含めた教育の 実践	2004年4月 ～現在	<p>総合コースの代表として、「人材と企業・行政・地域社会」の関係を考える」を企画して実践している。</p>
① 社会学部卒業論文において優秀 論文賞（安田賞）の受賞	2003年3月	<p>卒業論文の指導により、ゼミ生が社会学部卒業論文において優秀論文賞（安田賞）を受賞することができた。同論文は、執筆者が女性であることもあり、女性が企業活動に効率的に参加するにはどのように職務遂行に関わっていくのが良いかを、組織的視点、人間関係の視点、制度的視点から考察したものであった。指導に当たっては、これまでの学説を踏まえるだけでなく、現実の企業の実態を分析させ、そのうえで自分の考えを立論させた。</p>

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 助教授	氏名 野波 寛	大学院の授業担当の有無（有）
------------	-----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫</p> <p>集団間交渉や環境問題、異文化比較などについて体験教育が可能となるよう、教育・実験用シミュレーション・ゲーミングを講義にとりいれている。また、社会学・社会心理学の学術的知見にもとづいて自由な発想から日常体験を分析する観点を学生に習得させるため、講義内容を使った創作小説の執筆を課し、創作型講義を展開する。</p>	<p>2000年4月～ 2005年3月</p>	<p>社会学・社会心理学の学術的知見は、それのみでは多くの学生にとってあまり日常的になじみのない抽象論としてとらえられやすい。そこで、いくつかの集団から成る模擬社会を設定したシミュレーション・ゲーミングに学生を参加させる。ゲーミングの中で学生に集団間交渉や環境問題、異文化比較を模擬体験させ、この体験をレポートや創作小説の形で考察させることで、講義内容を実体験として感じさせることに努めている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>広瀬幸雄編著『シミュレーション世界の社会心理学』（ナカニシヤ） その他「自己作成したレジュメ」</p>	<p>同上</p>	<p>広瀬幸雄編著『シミュレーション世界の社会心理学』（ナカニシヤ）は、代表的な教育・実験用ゲーミングのひとつである「仮想世界ゲーム」にもとづいて社会学・社会心理学の学術的知見を紹介する。この著書のみでは最新の知見が詳しく解説できないので、自己作成したレジュメを用いて古典から最新までの知見をバランスよく紹介する。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>沖縄県名護市 「とまれ赤土：農民・市民みんなの共有財」</p>	<p>2005年 1月29日</p>	<p>沖縄県における赤土流出（海洋汚染）の問題について言及するシンポジウムにおいて、児童・学生・市民を対象とした体験型環境教育のあり方に関する講演をおこなった。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>神戸市環境審査会 諮問委員</p>	<p>2004年9月～ 2005年6月</p>	<p>神戸市のごみ問題（ごみ収集制度の改革）に関して、学生・市民への受容をはかるエクステンション・プログラムの提案に携わった。</p>

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 助教授	氏名 浜田 宏	大学院の授業担当の有無（有）
------------	-----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>○「基礎統計学」「数理社会学 A・B」における授業内小テストの実施</p> <p>○パワーポイントや数式処理ソフトを用いた視覚教材の活用</p>	<p>2004年4月～ 2006年3月</p>	<p>授業内小テスト 100名以上が履修する講義では学生の理解度を正確に把握することが困難であるために、講義の中で方法論上の重要な概念を導入するたびに確認の小テストを実施している。基礎統計学の授業では半期の講義期間内で三回程度、数理社会学 B では五回程度の小テストを実施した。回収した答案は原則的に翌週までに採点し、模範解答例と共に学生に返却している。この際、間違いが特に多かった部分については、どのような誤解から間違いが生じたのかを確認して、理解を深めさせるよう努めた。</p> <p>パワーポイントや数式処理ソフトの利用 二項分布や正規分布などの代表的な確率分布はその確率（密度）関数のグラフがパラメータの変化に伴いどのように変化をするのかが分かれば直感的な理解が容易になる。数式処理ソフトを用いてその変化をスクリーンに投影し、グラフィカルな表現によって学生の理解を促した。代数的表現と幾何的表現の二側面が結びつくことでより深い理解に繋がったようである</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書 自己作成したレジュメ</p> <p>基礎統計学 24 頁 (A4)</p> <p>数理社会学 A 20 頁 (A4)</p> <p>数理社会学 B 22 頁 (A4)</p> <p>調査統計学 24 頁 (A4)</p>	<p>2004年4月～ 2006年3月</p> <p>調査統計学のみ</p> <p>2005年4月～9月</p>	<p>理数系の手法を用いた科目（基礎統計や数理社会学）を教える際、文系の学生が数学の板書に慣れていないことに特に注意を払った。つまり、数学上の概念や表記法そのものに慣れていないために、板書を写すのに精一杯で中身の理解が追い付かないという学生が文系学部では圧倒的に多いのである。そこで、板書すべき内容をあらかじめレジュメとして毎回講義の最初に配布した。こうすることで学生はノートを写す単純作業の手間から解放され、その分、中身の理解に集中できるのである。確かに「書いて覚える」ことも重要だが、計算法などの理解に関しては別途小テストなどで補えるように工夫した。単に「板書を写す」と「理解する」ことが異なることを学生が気づくきっかけになったようである。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 助教授	氏名 福地直子	大学院の授業担当の 有無（有）
------------	-----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） ①学生主体とした英語の演習授業開講立案 ②研究演習の掲示板（ネット上） ③授業評価	1995年4月～ 現在 2001年4月～ 現在 1998年4月～ 現在	1995年に全学開講の新しい英語の授業を企画し開講した。学生が自ら教材を作成し、発表や討論のリーダーを務める授業を展開している。授業時間外の指導体制も整えて教材づくりの支援をしている。 研究演習の学生を対象とした連絡網の充実のために学生を管理者に設けている。授業外の活動や授業に向けての準備に関する事項も伝達でき、研究活動の連続性に寄与している。 授業評価を学期の終わりにネット上で実施している。自由記述形式の改善点を中心に参考にして授業改善を心掛けている。
2 作成した教科書、教材、参考書 ①ハートセラピーテスト ②New Ways in Teaching English at the Secondary Level 他「レポートのまとめ方」	1998年3月 1999年5月 2001年4月	ベネッセコーポレーションと共同で異文化適性検査と英語能力テストの開発に従事し、通信教育教材を発行した。 アメリカTESOL学会刊行の教育者向けの教授法の参考書の分担執筆。教室での試みと課題を5つ紹介した。 演習の学生を対象とした配布資料を作成し、レポートの構成部分別の問いを中心にとまとめたもの。アメリカ心理学会の基準に基づくもので抜粋し、作成したもの。2ページの配布資料に基本を簡潔にまとめた。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ①Assessment on Students' Psychological Needs ② Creative Methods in Teaching Cultural Modes of Expression ③ The Psychology of the Language Learner ④ Psychological Acculturation and Self Change Among Japanese Learners of English	1995年3月 1996年3月 2003年10月 2004年7月	外国語を学習者の心理的ニーズを踏まえた語学教育を提言した。（アメリカTESOL学会） 英語の言語文化を授業で紹介するための様々な試みと課題を提唱した。（アメリカTESOL学会） 必修英語学習者を対象とした心理的実態調査を通して現状と教育課題について考察した。（日本語学教育学会、神戸支部研究会） 必修英語学習者を対象とした心理的実態調査の心理的現状と文化化の過程に関わる教育課題について考察した。（アメリカ心理学会）

<p>4 その他教育活動上特記すべき</p> <p>事項</p> <p>①言語教育研究センター英語コーディネーター</p> <p>②言語コミュニケーション文化研究科 教務副委員</p>	<p>1998年4月～ 2000年3月</p> <p>2005年4月～ 2007年3月</p>	<p>全学の英語プログラムの英語コーディネータを務めた。IEFL 教員の採用や交換プログラムの引率などの業務に従事した。</p> <p>大学院言語コミュニケーション文化研究科の教務副委員を務める。 国際教育協力委員会、図書館運営委員会などに代表として参加している。</p>
--	---	--

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 助教授	氏名 藤井美和	大学院の授業担当の 有無（有）
------------	-----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>シラバスの明確化</p> <p>(授業の目的や毎回のトピック, 予め読んでおく資料や本の記載等, 学生が理解できるようにできるだけ詳しいものを作成する)</p> <p>授業でのまとめ</p> <p>前回の復習</p> <p>質問の受け付け</p> <p>学問的理解と体験的理解の相乗効果</p>		<p>死生学は, 関心を持つ学生が多いため, まず何を目的として授業をするのかについて学生に明確に理解してもらうため, シラバスや初回の授業で, 特に気をつけて説明する。</p> <p>また, 「死生学」は, 大人数の大講義室での授業のため, 授業では, 途中と最後に質問を受け付け, 学生の理解度を把握するようにしている。</p> <p>提出物には必ずコメントをつけて返却するようにしている(ただし, 大講義室の授業では提出物は希望者に返却)。大講義室での問題は, 学生の理解度を把握しにくいことと, その場で学生の質問に答えることが出来ないことである。その解消のため, 質問シートを用意して授業終了後質問のある学生にその場で記入して提出してもらう。TAの活用により大講義室でも学生とのコミュニケーションが取れる。</p> <p>授業の内容は, 学問的理解に加え, VTRなどの視覚教材, ワークショップや生と死の現場に関わるゲストスピーカーを招き, 理論と実践, 当事者の態度から社会の理解へと幅広く理解できるよう心がけている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>死生学用：たましいのケア(共著)</p> <p>いのちのことば社(2000)</p> <p>大学院リサーチ用：ソーシャリワーカーのための社会福祉調査法(共著)ミネルヴァ書房(2003)</p>	<p>2000年9月</p> <p>2003年5月</p>	<p>死生学については日本で入門書になるものがなかったため, 死生学開講にあわせて, 2000年入門書を出版した。</p> <p>大学院のリサーチの授業のためにも, 日本ではリサーチの良書がなかったため, 主にアメリカで教育を受けたメンバーでリサーチの教科書を執筆出版した。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p> <p>ビデオ製作記念シンポジウム記念講演</p> <p>「大学における生と死の教育」</p>		<p>2002年6月, 兵庫生と死を考える会主催の, ビデオ製作記念シンポジウムに招かれ, 大学における生と死の教育について記念講演を行った。その後シンポジウムを行い, 小学校, 中学, 大学における生と死の教育について, シンポジストとしてディスカッションを行った(朝日新聞全国面に掲載された)。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸大学附属住吉中学：生と死の授業 ・阪神シニアカレッジ（死生学講師） ・神戸シルバーカレッジ(死生学講師) ・兵庫医科大学 死生学講師 ・兵庫県『『命の大切さ』を実感させる教育プログラム策定委員会』委員 		<p>2002年より, 神戸大学附属住吉中学の総合学習「誕生から死まで(人間の一生に迫る)」において, 毎年, 死の部分を担当。子どもに死をどう伝えるか, 実践の場で貢献している。</p> <p>人生の締めくくりの時期としての高齢期における教育として, 生と死を見つめなおす講座を, 阪神シニアカレッジ, 神戸シルバーカレッジで2001年より担当。</p> <p>兵庫医科大学 医療福祉の授業の2コマ, 2001年度より継続して, 人の生と死の理解について講義(非常勤講師)</p> <p>今年度よりプログラム策定員として, 日野原重明氏, 養老猛氏らメンバーと共に, 小・中・高の教育プログラムの策定委員として参加している。</p>

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 藤原武弘	大学院の授業担当の 有無（有）
------------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） マルチメディア機器を活用した授業 方法	2003年4月～ 2004年3月	図・写真をパワーポイントにして提示し、学生の理解の助けとした。 また学生の関心を引き出すために、その授業内容と関連したビデオ、 映画等を講義で積極的に活用している。
2 作成した教科書、教材、参考書 藤原武弘編 社会心理学 培風館	1997年4月	社会的行動の場や領域における4つの軸（社会的行動過程、相互作用 過程、集団過程、集合・文化過程）に、3つの媒介概念（認知、感情、 意志・動機）を組み合わせ、12章より構成。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき 事項 市民講座の担当	1999年6月～ 2000年2月	伊丹市生涯大学で「社会心理学への招待」を15回担当。

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 古川 彰	大学院の授業担当の 有無（有）
------------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき 他大学との合同実習「地域に学ぶ」 の試み	1996年 ～2004年	<p>前任校から引き続き、京都大学、愛媛大学、法政大学などの関連ゼミと合同で3年生の実習を実施している。実習には多数の大学院生がチューターとして参加している。昨年度参加者は教員6名、学生57名、大学院生14名であった。</p> <p>実習地は三重県熊野市を中心とした紀南地域で8集落を定点としておもに聞き取り調査、資料調査を実施。調査地でのワークショップと</p> <p>合同実習報告書『地域に学ぶ』を毎年発行し、2004年度版第9集を発行した。 http://kumanoclub.net/report/</p> <p>合同実習のホームページを開いている。 http://blog.kumanoclub.net/</p>

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
社会学部	教授	Alan Brady	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		
a) 視聴覚材料の多用	2003—2005	特に人生の価値観、生き様などを扱ったビデオ、歌、ストーリーを多用し、学生に出来るだけ自分で考えさせ、消化させてそれを更に自分の文章で個々に、もしくはグループで発表させる。
b) 定期的な発表の場を設ける	2001 --- 2005	私自身も含めて学生が順番に毎日の生活の中からトピックを選び発表する、そしてその中からあるトピックを選びだしてそこからその日の授業の展開につなげていく。出来るだけ社会学に関連する（福祉、メディア、心理、事件に関する学生の反応など）テーマにもっていく。
c) クラスによる reflection note 交換	2004 - 2005	学生が自主的に小グループに分かれ、その日の授業の要約、自分達で感じたこと、また教え方も含めて反省点などをまとめさせ、それを e-メールで私に送信させる。これには私も必ず参加し、私のノートもクラスで公開する。
d) 英語による多読を推し進める	2003 -- 2005	学生に自分の好きな本、雑誌を選択させ、それを短期間でどれくらい読めるか、その結果を必ず e-メールで報告をさせる。更にその内容を小グループでまとめさせてそれをまたクラスで発表、討議に使用。
c) 楽しんで英語の本を読む	2002 -- 2004	特にリーディングのクラスでは、時間のある限り各学生にアポイントを取らせ、私と 1 対 1 で現在読んでいるものについて個人面談（約 15 - 20 分ずつ）を行い、途中経過を必ず e-メールで要約とともに送信させる。
2 作成した教科書、教材、参考書		
a) 専門分野に関連の材料	2000 - 2005	私は 1 - 2 種類のテキストだけを使用することはしない主義である。そのため、常に学生の興味をひくような、社会学部に関連のある材料を地域の雑誌や新聞、海外、学会の研究論文などから収集をしている。
b) 学生への事前アンケート使用	2003 - 2005	特に社会学に関連する社会現象、問題などを扱った記事をローカルのものから海外のものまで収集し、それをメインのテキストがあればそれとあわせて使用する。クラスがある特定のテーマにとっても関心を示した場合は、更にそれを膨らませられるような材料を常に用意している。
c) クラスの reflection notes 利用	2004 -- 2005	ここ数年はクラスが始まってすぐに学生の意見、関心事等を書かせてそれをベースにクラスの授業展開、その教育材料を選んでいく。
d) 自己評価、授業の評価ノート	2002 -- 2005	1) で述べた reflection notes を再利用し、それを更にグループで論文とした形になるよう討議を重ねてまとめさせる。論文のまとめ方、英語の表現の改善に利用する。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 * 実証関連の研究発表のみ列記		学生達にそれぞれ自己評価を途中でさせるとともに、また授業のありかたや教え方へのコメントを提出させ、それを出来るだけクラスで生かす。
		私の近年の研究・実践課題は、『大学・大学院における言語教育、特に英語教育をいかに専門分野に結び付けるか・また、言語教育の社会における位置、意味』であるので、その中で実践に近い研究発表を下記に選んだ。

<p>Emancipatory Student Higher Learning</p> <p>Integration of additional Eng. Language education in Mainstream Univ. Curriculum</p> <p>Developing critical thinking and being in a non-native language in the Japanese university</p> <p>Social change and participation through dialogically engaged communal communication</p>	<p>5・12・01</p> <p>2・17・02</p> <p>6・25・04</p> <p>6・5・05</p>	<p>東海大学での小学会にて研究発表：授業で実際に活用をしている reflection notes の利用のしかた、学生からの feedback やできるだけ学生に考えさせクラスに参加させるために何が出来るか、具体的に発表をした。</p> <p>JALT 学会、神戸支部での講演：大学における英語教育をいかに学部での専門教育に直接つながる手段とするか、実際の授業のありかた、実践などについて基本講演をした。</p> <p>USA, シカゴ大学における Crossroads in Culture Studies 学会にて上記の研究課題の発表、及びセッションに参加。英語教育の実情、そして現在の実践の状況、問題など。</p> <p>Sweden, ストックホルムにおける Frontiers of Sociology 社会学会において、言語教育をいかに高等教育の場で専門教育と融合させた教育実践ができるか、その実践について発表。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>所属の協会活動以外は特に無し。</p>		

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 牧里 毎治	大学院の授業担当の 有無（有）
------------	----------	-------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2001年4月 ~2005年6月	<p>「地域福祉論」、「メゾマクロメソッドA」などの授業において教科書、参考書以外に穴埋め式レジュメ、選択式小問題、クイズ形式のミニペーパー記述など配布プリントを作成し、一方的な講義にならないよう参加型の授業につとめている。また、プロモーション・ビデオ、市販ビデオ、公共放送ビデオ（録画）なども活用し、実際の実践を映像音声で確かめることもおこなっている。さらに現場で実践している中堅の実務家をゲストスピーカーとして招き、質疑応答や感想シートをかかせるなど教室という限られた知識習得をこれらの現場との繋がりをつくるよう努めている。</p> <p>「社会福祉現場実習指導」においては社会福祉協議会事務局でのおよそ30日間の実務実習に先立って、実習機関の理解、基本用語の習得、ロールプレイ、ビデオ視聴などをおこない準備教育を少人数（約15名程度）の演習形式でおこなっている。</p> <p>「社会福祉学研究演習」では3年次には3-4名でサブグループをつくらせ、講読演習させるとともに、授業外にもボランティアで福祉のまちづくり活動などフィールドワークさせている。多くは住宅や商店街の空き部屋、空き店舗を活用してもらい、学生自主企画で地元貢献するプログラムを展開させている。4年次はもっぱら卒業論文作成のためのテーマ設定からアウトライン構成、執筆を指導し、最終的には論文集として手作り製本している。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書	2005年4月 2004年3月 2004年10月 2003年3月 2003年3月 2003年3月 2002年3月 2000年3月	<p>共著『社協ワーカーへの途』関西学院大学出版会、参加型実習指導のワークブックで社会福祉協議会へ実習に行くための事前学習書</p> <p>共編著『新版社会福祉学習双書 2004 社会福祉援助技術論』全国社会福祉協議会</p> <p>共編著『社会保障・社会福祉大事典』旬報社 全体の編集と「自治体における社会福祉計画」を分担執筆</p> <p>共編著『地域福祉論』放送大学振興会</p> <p>共編著『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房</p> <p>共編著『社会福祉援助技術論(下)』ミネルヴァ書房 コミュニティワーク、プランニングなどの援助技術について編集</p> <p>共編著『地域福祉論』ミネルヴァ書房</p> <p>編著『地域福祉論』川島書店、主に地域福祉に関するトピックスを中心に編集したもの。学部4年生および大学院のテキストとして使用。</p>
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等	2004年10月	(社)日本社会福祉教育学校連盟の第34回社会福祉教育セミナー「社会福祉教育における特色ある大学教育支援プログラムの取り組み」というテーマでコーディネーターを務める。
4 その他教育活動上特記すべき 事項	2004年9月 2004年2月 2003年12月 2002年7月	<p>(福)全国社会福祉協議会の社協ワーカー研修会にて「今日のコミュニティワーク」と題する基調講演をおこなった。</p> <p>福祉自治体ユニット主催の地域福祉計画パイオニア・カレッジにて「地域福祉計画策定取組報告」分科会にてコーディネーターを務める。</p> <p>UFJ 総合研究所名古屋本社主催の社会福祉セミナー「地域福祉のプランニングと今後の展望」にて基調講演「地域の未来を担う福祉行政を考える」をおこなう。</p> <p>日本学術会議、社会福祉・社会保障研究連絡委員会主催の2002年夏季学術研究集会 in 秋田「社会福祉の理念と今後の課題」にて第4分科会「広域市町村合併と社会福祉の課題」でコーディネーターとコメントレーターを務める。</p>

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 助教授	氏名 松岡克尚	大学院の授業担当の 有無（無）
------------	-----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） 「精神保健福祉論A・B」および 「障害者福祉論」におけるコメント カードの配布とフィードバック 同上の科目における板書使用と その工夫	2004年9月～	学生の授業理解や要望等の把握すること、および一方方向の授業に終始しない工夫として、コメントカードを受講生に配布し、毎回の授業の最後に、その日に学んだことの要約、質問などを記入、提出してもらっている。学生からのコメントは、翌週にその一部を「(フィードバック用)コメントシート」の形で配布し、様々な意見や捉え方についての受講生の間での共有を図っている。
	2004年4月～	授業内容に関しての要点を必ず板書、それも文章形式で行っている。そうすることで聴覚障害学生の講義理解を促すだけでなく、そうでない学生についても、同様の効果を与えることを狙っている。
2 作成した教科書、教材、参考書 「自己作成したレジュメ」	2004年4月～	担当するほぼ全科目について、毎回の内容を要約したレジュメを配布し、学生の講義理解、復習に活用してもらっている。特に、講義科目については、かなり詳細な内容であることを心がけ、あわせて参考文献を掲載し、学生の自己学習に役立ててもらっている。また、それによって聴覚障害学生の講義理解促進の効果も意図している。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき 事項 ノートテイク制度への助言等 精神保健福祉のNPO活動 教務副主任としての活動	2004年9月～	聴覚障害学生に対するノートテイカーの配置を社会学部が実施するに当たって、事務担当者と連携し、その準備（ノートテイカー養成を含む）、運営に助言等を行っている。
	2004年4月～	精神障害者の地域生活支援を行っているNPO活動の運営、実践に参加し、そこでの体験や得られた知識を、「精神保健福祉論」「障害者福祉論」を中心に様々な講義で活用している。
	2005年4月～	社会学部教務副主任として、学部内（カリキュラム検討）および学内の教育関係（言語教育、国際交流、教育課程、FDなど）の各種会合や活動に参加している。

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 真鍋一史	大学院の授業担当の有無（有）
------------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） 講義課題「社会調査論（A）」 調査方法を単なる技法として学ぶのではなく、その背後にある実証科学の基本的な考え方との関連において理解するよう指導している。	2004年4月 ～2004年3月	講義形式の授業であるが、調査方法の修得のためには、どうしても実習的要素が必要となる。 毎回、課題提出という形での学習トレーニングを実施している。
2 作成した教科書、教材、参考書 自分で作成した教材を教科書として使用し、参考書として拙著『社会・世論調査のデータ解析』（慶応大学出版会）を利用している。	2004年4月 ～2004年3月	(1) 調査と理論 (2) 標本抽出法（〔1〕 割当法、〔2〕 単純無作為抽出法、〔3〕 層化多段系統抽出法） (3) 調査票設計（〔1〕 質問形式、〔2〕 回答形式、〔3〕 ワーディング、〔4〕 質問文の配列・レイアウト、〔5〕 ファセット・デザイン） (4) 調査方法（〔1〕 面接調査法、〔2〕 電話調査法、〔3〕 郵送調査法、〔4〕 集合調査法、〔5〕 インターネット調査法） (5) 回収作業（〔1〕 エディティング、〔2〕 コーディング、〔3〕 入力作業） (6) データ解析（〔1〕 単純集計、〔2〕 クロス集計、〔3〕 メディアン・リグレッション・アナリシス、〔4〕 相関係数、〔5〕 パターンとスケール、〔6〕 多変量解析） (7) データ・ライブラリー (8) 社会調査の歴史 (9) 社会調査の倫理 (10) まとめ ーよりよい社会調査を求めてー
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき事項 学生が「社会調査士」の資格を取るよう指導している。	2004年4月 ～2004年3月	・社会調査士認定機構のための関西学院大学の連絡責任者として、社会調査教育の推進につとめている。 ・日本社会学会の社会学教育委員会委員として、社会学教育のあり方について調査研究した経験をもつ。 ・兵庫県の生涯教育状況調査を企画・実施した経験をもつ。

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>講義課目「世論B」</p> <p>単に講義内容をそのまま理解するというのではなくて、それを批判的に受容する、自分で考える姿勢を養うよう指導している。</p>	<p>2004年4月 ～2004年3月</p>	<p>多人数履習の授業においては学生一人一人の理解度を把握することが困難であるため、毎回、課題を準備し、それに答えてもらうことをとおして、その理解度を捉えるとともに、学習効果を高めるようつとめている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>自分で作成した教材を教科書として使用し、参考書として拙著『国際比較調査の方法と解析』(慶応大学出版会)を利用している。</p>	<p>2004年4月 ～2004年3月</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 世論という言葉と世論の概念 2. 世論研究の系譜と現状 3. 世論調査と Survey Research 4. ポスト・モダンの価値観の測定と諸相 5. 国際比較調査の現状と課題
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p> <p>学生が「社会調査士」の資格を取るよう指導している。</p>	<p>2004年4月 ～2004年3月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査士認定機構のための関西学院大学の連絡責任者として、社会調査教育の推進につとめている。 ・日本社会学会の社会学教育委員会委員として、社会学教育のあり方について調査研究した経験をもつ。 ・兵庫県の生涯教育状況調査を企画・実施した経験をもつ。

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 室田保夫	大学院の授業担当の 有無（有）
------------	----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 （授業評価等を含む） 授業評価の取り入れ 授業の理解をより促進するために 理解度とその時間の理解度の調査	2000年4月～2004年3月	授業についての評価を学期末に自由に書いてもらって、授業の改善に役立てた。
	同上	授業の理解を促進するために、主にビデオを利用し、授業中に配布したレジュメと資料の補助とした。
	同上	他人数の講義において、その時間の理解度を知るために、授業の終わりに、感想を書いてもらって、理解度を確認した。
2 作成した教科書、教材、参考書 教科書の出版	2003年1月	『日本社会福祉の歴史』を共編著（編集責任者）で出版し、授業に役立てた。
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき 事項 社会学部教務副主任の業務	2001年4月～2003年3月	学部上の教務関係の業務（カリキュラム検討も含む）において教育上の様々な事項、課題の検討をした。

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
社会学部	助教授	森久美子	有無（有）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2003年4月～ 現在	<p>多人教授業では学生の理解度把握が困難であるため、ひとつのテーマが終了するごとに授業に関するコメントや質問を自由に記述してもらい、提出を求めている。次の授業で特徴的なコメントを紹介し、多かった質問に答えることで、わずかでも双方向的やりとりが可能になるようにしている。また授業冒頭では前回の内容を簡単にまとめて呈示し、内容を思い出させるとともに継続性の維持を図っている。</p> <p>教材はパワーポイントで作成・提示し、内容を抜粋したものをレジюмеとして配布、要点をレジюмеに書き込めるようにしている。レジюмеのファイルはネット上の共有ドライブに置き、やむを得ず欠席した場合にはダウンロードして自習できるようにしている。</p> <p>抽象的なモデルや理論の説明には、日常的な具体例や思考ゲーム的例題を列挙し、具体例の蓄積からも理解が得られるよう工夫している。ビデオや新聞記事の抜粋を用いるほか、書籍や映画等の関連情報を必要に応じて紹介するようにしている。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書	2004年4月	<p>「職場の人間関係と意思決定」 外島裕・田中堅一郎(編)『増補改訂版 産業・組織心理学エッセンシャルズ』, ナカニシヤ出版, Pp. 99-125. 産業組織心理学、経営心理学に関する教科書。職場集団におけるグループ・ダイナミクスおよび意思決定について解説している。</p>
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき 事項	2001年9月～ 現在	<p>NPO 法人「アスペ・エルデの会」(発達障害児・者のための発達援助システム)においてディレクターを務めている。</p>

教育実践上の主な業績

所属	職名	氏名	大学院の授業担当の
社会学部	専任講師	森 康俊	有無（無）

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2003年4月～ 2005年3月	<p>昨今の大学生の学力や勉学態度をめぐる議論に関して、小職は定期試験において、受講者の努力がきちんと評定できる試験を作題することが、多様な評価軸を用意することよりもむしろ重要であるという認識にたつて、努力をしている。</p> <p>このことは、300人以上の多人数受講者の科目を担当することが多い小職にとって、受講者につねに緊張感をもって受講してもらう契機になっていると考えている。</p> <p>その他、パワーポイントを利用しての資料提示も、完全版を配布するのではなく、学生の授業中のコミットメントを可能にするように細かな工夫を施している。これは受講者に対して「上げ膳据え膳」を提供することで、授業への参加度が低減することを回避するためである。</p> <p>同様に、内外のメディアからさまざまな映像資料を理解促進のために利用するが、これについても「映像＝わかりやすい、活字＝難しい」との学生側の紋切り型の印象を醸成しないように努めている。</p> <p>FD活動の要は、資格試験・国家試験のような試験問題を作題する！パワーポイントの配付資料を安易に配布しない！レポートを課す場合は書き方を一から指導する！安易に映像資料づけにしない！の4点であると考えている。</p>
2 作成した教科書、教材、参考書	同上	<p>(分担執筆) 橋元良明編『コミュニケーション学への招待』大修館書店(1997年初;2005年9刷)</p> <p>我が国において、広く全国の大学で採用されているコミュニケーション研究の包括的なテキスト。</p> <p>『コミュニケーション論』『放送論』『危機管理論』『メディア調査法』『社会調査法』について半期15回のオリジナルのパワーポイント教材を作成し、毎年更新している。</p>
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等	同上	特になし
4 その他教育活動上特記すべき 事項	同上	<p>専門領域の災害社会学について、学外の専門家及び一般向け講義・講演を行った。</p> <p>兵庫県消防学校 上級幹部クラス「情報分析とコミュニケーション」(2005.2.16) 専門家対象</p> <p>兵庫ニューメディア推進協議会設立20周年記念事業「安全・安心なまちづくりをめざして」セミナー 基調講演「災害と情報通信」(2005.3.17) 専門家及び一般対象</p>

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 八木克正	大学院の授業担当の有無（有）
------------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>言語コミュニケーション文化研究科の「辞書学特殊講義」の講義のためにシラバスと講義内容を整備し、中身の濃い講義にする工夫をした</p>	2000年4月～ 現在に至る	わが国ではまだほとんどない「辞書学特殊講義」を大学院修士課程で開講し、その授業のために、独自の教材・シラバスを作成し、中身の濃い講義になるように努力した。
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>『ユースプログレッシブ英和辞典』 小学館。</p>	2004年4月1日	英語教育の中で伝統的に伝えられてきた、英語についての誤った事実認識や、古い認識を改め、まったく新しい観点から編集した英和辞典として出版した。八木は、その編集主幹。
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p> <p>「国際理解と英語教育—基本概念」 の題で、近畿地区30校の校長先生 方に講演</p> <p>「実証的言語研究の方法と展開」の 題で、英語教育の方法や内容に関し て」の題で講演</p> <p>「21世紀にふさわしい英和辞典と 学習英文法のために」の題で研究発表</p> <p>「現代アメリカ口語英語の実態から 日本の学習英文法を見直す」の題で 講演</p> <p>「21世紀にふさわしい学習英文法の 内容を考える」の題でシンポジウム 講師として発題</p>	<p>2001年5月16 日</p> <p>2002年1月25 日</p> <p>2002年9月28 日</p> <p>2002年11月30 日</p> <p>2004年6月5日</p>	<p>近畿地区英語・国際関係等設置高等学校長会（大阪府立旭高等学校）において、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学の国際理解教育と英語教育の現状と諸問題の解決策について講演した。</p> <p>名古屋大学言語文化部平成13年総長裁量経費プロジェクト「ネットワーク環境と人的資源を活用した外国語教育の改革の推進に関する調査研究」主催、名古屋大学大学院国際言語文化研究科・国際開発研究科後援（名古屋大学）。名古屋大学やその近辺の英語教育者、英語研究者に講演</p> <p>大学英語教育学会関西支部学習英文法研究会第15回研究会（9月例会）（大阪大学）で、学習英文法研究者、英語教育に従事する専門家対象に研究発表。</p> <p>第6回神戸市外国語大学英米学会（学園都市大学共同利用施設UNITY）で講演。英語文法の見直しの必要性を強調した。</p> <p>大学英語教育学会関西支部ワークショップ「21世紀の学習英文法を考える—一語用論、認知言語学、実証的語法研究からの提言」（流通科学大学）で、パネリストの一人として発題。</p>

「BNC コーパスで英和辞典がかわる」 の題で講演	2004年6月13 日	小学館主催 ラッセホール（神戸）の講演会。新たな挑戦としての、大規模コーパスを利用し、現代英語の実態にせまる英和辞典の編纂について講演。
「21世紀にふさわしい学習英文法の内容を考える」の題で発題	2004年11月13 日	日本英語学会第22回大会ワークショップ「学習英文法の見直し」（獨協大学）で、パネリストの一人としての発題。
「学習英和・和英辞典をどのように改良してゆくか一問題認識の持ち方と問題克服の方法を考える」の題で研究発表	2005年3月26 日	大学英語教育学会（JACET）第10回英語辞書学ワークショップ2005「英語の辞書と語彙」（東京電機大学）
「英語が使える日本人養成と英語学習文法事情」の題で講演	2005年6月25 日	関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科フォーラム（関西学院大学梅田キャンパス）での講演。対象は一般市民、研究科受験予定者、大学院生、一英語教育者。
4 その他教育活動上特記すべき事項 英語教育関係者・辞書編纂者・辞書利用者などを対象とした、英語教育の内容に関する出版社のインターネットホームページに連載 英語教育関係者や英語研究者からの英語に関する質問に対する回答の連載	2001年2月から現在に至る 2001年9月号から現在に至る	2001年2月から2002年11月（(1)～(84)）まで月4回、2002年12月から現在まで（(85)～(147)）月2回、『語法の鉄人』のタイトルで小論文を連載中（『小学館ランゲージワールド』 http://www.l-world.shogakukan.co.jp ） 『英語教育』誌（大修館書店）「クエスチョンボックス」欄の回答者として2001年9月号から隔月、2005年4月号から毎月執筆中。

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 助教授	氏名 山 泰幸	大学院の授業担当の有無（無）
------------	-----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>「社会思想史講義A（春学期）」「社会思想史講義B（秋学期）」では、毎回、授業の最後に時間をとり、質問用紙を配布して、授業における疑問点、わかりにくい点、意見を全員に書いてもらい、次回の授業の最初に主な質問を紹介して疑問に答えていくようにしている。「文化論演習（秋学期）」では、グループによる研究課題の設定、調査、発表を行っており、学生の関心を取り入れて、現代のできるだけ多彩な文化現象を取り上げるようにしている。</p>	<p>2004年4月～ 2005年3月</p>	<p>「社会思想史A」「社会思想史B」においては、社会学の授業であるとともに、歴史的素材を扱った授業でもあり、履修者によって歴史的知識に大きな違いがあるので、講義を内容を理解するための基本的な歴史的知識や背景を補うようにしている。また、多人数であるため、毎回、質問、コメントを受講者全員に書いてもらい、次回の授業でそれに応答している。</p> <p>「文化論演習」においては、グループによる研究課題の設定、調査、発表を行っており、グループによる話し合いや研究課題の発見などを補助するかたちで、それに応じて、基本文献の全員による講読と議論、解説を組み入れている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>荻野昌弘『資本主義と他者』関西学院大学出版会＋自己作成したレジュメ（社会思想史A）</p> <p>自己作成したレジュメ（社会思想史B）</p> <p>自己作成したレジュメ（文化論演習）</p>	<p>同 上</p>	<p>「社会思想史A」では、教科書の内容に即して、資本主義の起源に関する社会学の研究史とともに、日本資本主義勃興期における社会思想を中心に取り上げて解説している。</p> <p>「社会思想史B」では、複数の研究論文、書籍から教員がポイントをまとめたレジュメをもとに解説している。内容は、近代西欧における社会思想の流れを解説している。</p> <p>「文化論演習」では、文化遺産・博物館、および口承文芸に関する社会学的研究の流れと論点について教員が作成したレジュメを配布している。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特になし。</p>	<p>同 上</p>	<p>特になし。</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項 特になし。</p>	<p>同 上</p>	<p>特になし。</p>

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 山路勝彦	大学院の授業担当の有無（有）
------------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>マルチメディア器具を活用 (ビデオ、OHCを多用) プリント教材の多用。</p>	<p>2001年4月— 現在</p>	<p>文化人類学は馴染みのうすい民族の儀礼や習慣を取り上げるので、学生の理解のためには映像資料を多用することが避けて通れない。様々な民族の風俗習慣をビデオ、もしくは写真で紹介し、さらにプリントを配布し、内容の説明を行っている。授業(90分)では毎回、7-12分程度に編集したビデオを2、3本ほど利用して、異文化の紹介をしている。</p> <p>また、写真などの資料をOHCを利用して説明している。授業中には、毎回、授業の概要をプリントして配布している。</p> <p>月平均で1回、学生にはコメントを課し、どこまで異文化理解が達せられているか、チェックしている。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>教材用としてレジユメを自己作成</p>	<p>2001年4月— 現在</p>	<p>授業計画に即し、毎回の授業内容をプリント(8枚ほど)にして配布している。とりわけ、様々な基礎的資料とともに使用する学術上のコンセプトを要約したものを配布している。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 助教授	氏名 山上浩嗣	大学院の授業担当の 有無（有）
------------	-----------	------------	--------------------

教育実践上の主な業績	年月日	概要
<p>1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フランス語講読科目 ・ フランス語初級科目 ・ 講義科目 ・ 授業評価 	<p>2001年4月～ 2005年6月</p>	<p>①テキストに訳注と解説を付して編集した自作教科書の使用。②初見のテキストを授業中に訳す小テストの実施。</p> <p>①復習小テスト（一学期に3回）の実施。②フランス文化紹介のため、映画の一節上映とそのせりふの解説、シャンソンの歌詞読解、フランスの新聞記事解説などを適宜取り入れている。</p> <p>①自作資料配付。②毎回授業の終わりにコメント票の記入を求め、次回の授業で一部を紹介。質問や注文には可能な限り答える。</p> <p>毎学期末に、担当する全授業で学生による授業評価を実施（フランス語科目、講義科目においては、原則として本学総合教育研究室に実施を依頼）。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>1) 出版された教科書・参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 『はじめて学ぶフランス—関西学院大学講義「総合コース・フランス研究」より』 ・ 『社会文化理論ガイドブック』 <p>2) 自作のフランス語講読用教科書：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <i>Littérature et philosophie françaises contemporaines</i> ・ Blaise Pascal, <i>Pensées</i>, chapitres : « Transition » et « Vanité » (extrait) ・ Georges Perec, <i>Wou le souvenir d'enfance</i> (Première Partie I-VIII) ・ Michel Tournier, <i>Le Miroir des idées</i> (extraits) I ・ <i>Anthologie de textes littéraires et philosophiques I</i> ・ <i>Anthologie de textes littéraires et philosophiques II</i> ・ Michel Tournier, <i>Le Miroir des idées</i> (extraits) II ・ <i>Guide du Musée d'Orsay</i> <p>3) 自作の講義用配付資料：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「宗教・身体・習慣—ブレーズ・パスカルの人間論」 ・ 「フランス近代思想における自然と文明」 	<p>2004年10月</p> <p>2005年5月</p> <p>2001年度春・秋学期</p> <p>2002年度春・秋学期</p> <p>2003年度春・秋学期</p> <p>2003年度春・秋学期</p> <p>2004年度春学期</p> <p>2004年度秋学期</p> <p>2005年度春学期</p> <p>2005年度春学期</p> <p>2001年度春学期</p> <p>2001年度春学期</p>	<p>関谷一彦・細見和志・山上浩嗣編、関西学院大学出版会</p> <p>大村英昭・宮原浩二郎・名部圭一編、ナカニシヤ出版（山上は「フォーコー『言葉と物』、ブローデル『世界時間』の項執筆」</p> <p>フランス芸術・文化講読演習（社会学部）にて使用</p> <p>フランス哲学・思想講読演習（社会学部）にて使用</p> <p>フランス芸術・文化講読演習（社会学部）にて使用</p> <p>フランス哲学・思想講読演習（社会学部）にて使用</p> <p>フランス哲学・思想講読演習（社会学部）にて使用</p> <p>フランス哲学・思想講読演習（社会学部）にて使用</p> <p>フランス哲学・思想講読演習（社会学部）にて使用</p> <p>フランス芸術・文化講読演習（社会学部）にて使用</p> <p>哲学・思想特殊講義（社会学部）にて使用</p> <p>比較文化研究（社会学部）にて使用</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・「ユマニズムから近代合理主義へーモンテーニュ、デカルト、パスカルの動物論と人間論」 ・「フランス文学における『嫉妬』」 ・「フランス文学における『幸福』」 ・「フランス思想における『他者』への視線」 	<p>2001 年度秋学期</p> <p>2002 年度秋学期</p> <p>2004 年度春学期</p> <p>2005 年度春学期</p>	<p>哲学・思想特殊講義（社会学部）にて使用</p> <p>西洋文学講義（社会学部）にて使用</p> <p>西洋文学講義（社会学部）にて使用</p> <p>言語文化特殊講義（言語コミュニケーション文化研究科）にて使用</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>1) 論文：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「フランス語インテンシブコースの試みー初級 I・初級 II を中心に」 <p>2) 発表：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会学部における今後の外国語教育について」 ・「フランス語インテンシブコースの試みー初級 I・初級 II を中心に」 ・「総合教育研究演習について」 <p>3) エッセー：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ことばを学ぶことと文化を知ること」、 ・「フランス語の検定・資格試験」 ・「フランス語のエキスパートを目指せ」 	<p>2003 年 3 月</p> <p>2002 年 3 月</p> <p>2003 年 2 月</p> <p>2003 年 3 月</p> <p>2002 年 4 月</p> <p>2003 年 4 月</p> <p>2005 年 3 月</p>	<p>『言語教育研究センター研究年報』、第 6 号</p> <p>第 22 回社会学部懇談会</p> <p>関西学院大学言語教育研究センター研究会</p> <p>第 23 回社会学部懇談会</p> <p>『インテンシブ・プログラムと選択外国語のすすめ』2002 年度版、 関西学院大学言語教育研究センター</p> <p>『インテンシブ・プログラムと選択外国語のすすめ』2003 年度版、 関西学院大学言語教育研究センター</p> <p>『インテンシブ・プログラムと選択外国語のすすめ』2005 年度版、 関西学院大学言語教育研究センター</p>
<p>4 その他教育活動上特記すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語教育研究センター・フランス語コーディネーター ・2002 年度本学フランス語夏季海外研修（言語教育研究センター主催）引率 ・2003 年度本学フランス語夏季海外研修（言語教育研究センター主催）引率 ・和歌山県立桐蔭高校「第 4 回桐蔭総合大学」講義 ・大阪府立茨木高校「学問発見講座」講義 ・放送大学客員助教授 	<p>2002 年 4 月～ 2004 年 3 月</p> <p>2002 年 9 月</p> <p>2003 年 9 月</p> <p>2004 年 3 月</p> <p>2004 年 10 月</p> <p>2005 年 4 月～ 現在に至る</p>	<p>ブザンソン、フランシュ=コンテ大学、CLA</p> <p>ブザンソン、フランシュ=コンテ大学、CLA</p> <p>演題「現代フランスの文化と社会」</p> <p>演題「現代フランスの文化と社会」</p> <p>放送大学ラジオ「フランス語 II」講師、工藤庸子・原和之と共同で担当（2005 年度は教科書作成と収録、放送は 2006 年 4 月開始）</p>

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 教授	氏名 山本剛郎	大学院の授業担当の有無（有）
------------	----------	------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2000～2003 年度	大教室での授業のため、板書することが不可能に近いため、毎回レジユメを用意している。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等		
4 その他教育活動上特記すべき 事項	2000 年 4 月 ～2005 年 3 月	公民館運営審議会委員

教育実践上の主な業績

所属 社会学部	職名 専任講師	氏名 Hans Peter Liederbach	大学院の授業担当の有無（有）
------------	------------	-----------------------------	----------------

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
<p>1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)</p> <p>「ドイツ語文法Ⅰ」 ビデオ、テキスト、CDなどを含む教材を利用し、学生のニーズに対応できるコミュニケーティブな教授法。 小テスト、学期末試験を行った。</p> <p>「ドイツ語読本Ⅰ」 同上 「ドイツ語文法Ⅰ」と連結した授業が為</p> <p>「哲学講義 A」 自作の教材を元にした講義 講義スタイル(約70分) 質問に取り組む時間(約20分) を設置した 学期末試験</p> <p>「哲学演習」 ゼミスタイル.精読と討論 受講生のプレゼンテーション 授業録(毎回担当者が前回の授業の内容を要約し発表する) テキストを解釈することは困難なので、 受講生からの質問に応える時間を 十分にする必要があった 平常点</p>	<p>2004年4月～ 2004年9月</p> <p>同上</p> <p>同上</p> <p>2004年10月～ 2005年3月</p>	<p>初心者向けのドイツ語授業 学習者にできる限り迅速に、習得の成果、特に発話力、聴き取り力、といった実践力を獲得したという実感を与えるための手助けに重点を置いた。さらに、学習者に発話の機会を最大限に与えるため、コミュニケーティブな授業を行った。文法の丸暗記式の学習ではなく、ロールプレー、グループ学習などを中心とした学習であった。教師は司会者的立場をとり、学習者を補助し、誤りを訂正するといった役割を担うことになった。その際、日本の学習者にありがちな、誤りをおかすことに対する恥じらいにも丁寧に対応することが可能になったのである。</p> <p>同上</p> <p>20世紀哲学のさまざまな問題提起(言語、歴史、意識など)を紹介し、「現在、哲学的に問うこと、考えることはどのようなものか」という問題を中心的に論じた。</p> <p>「哲学講義 A」の続き 歴史という問題を哲学的な観点から検討した。そのため、中心的にF. ニーチェの歴史論に取り組み、解釈した。</p>

<p>「哲学・思想講読演習」</p> <p>グローバル的テキスト理解を支える</p> <p>テキストに関する質問を用意し</p> <p>(紙ベース)、毎回それをたどりながら</p> <p>テキストを読み続けた。</p> <p>ドイツ語構文の分析を練習した。</p> <p>平常点</p>	<p>同上</p>	<p>Max Weber, "Wissenschaft als Beruf" の精読を中心とした演習。ただし、学習者はテキストの単なる日本語訳を作成せず、いわゆるグローバル的テキスト理解を訓練した。社会学の先祖たるウェーバーの思想の紹介を含む演習であった。</p>
<p>「ドイツ語文法Ⅱ(再履修)」</p> <p>ドイツ語構文のいわゆる</p> <p>"Valenzstruktur" を導入し、受講生の</p> <p>のドイツ語文法の構造的な理解を</p> <p>目指した。</p> <p>学期末試験</p>	<p>2005年4月～</p> <p>2005年9月</p>	<p>再履修クラスがため、ドイツ語文法を特訓した。復習は、受講生の主な問題点に焦点をあたり、練習問題を中心とした。</p>
<p>「総合教育研究演習1」</p> <p>受講生の小人数のため個別指導を</p> <p>行うことが可能となり、受講生の</p> <p>ニーズに応えることができた。</p> <p>テキストへのアプローチ、要約の</p> <p>作り方、レジュメの形式的な</p> <p>要点(書き方・スタイル、ハンドアウト</p> <p>の構成など)、二次文献の選び方・使い方</p> <p>を訓練している。</p> <p>タームペーパー (約6000字)</p>	<p>2005年4月～</p> <p>2006年3月</p>	<p>日本文化論の可能性と限界についての研究演習である。</p> <p>授業の進み方(春学期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本文化論の分野と系譜を明らかにする(準備作業として、春休み中の課題であった) 2. 日本文化論の共通の方法論的な問題を発見する 3. 日本文化論の一つの古典(和辻哲郎『風土』)を中心的に議論する 4. 受講生が関心を持つ日本文化論を選択し、上述の古典と関連させながらタームペーパーを作成する <p>受講生は、毎回プレゼンテーションを行い、それに関して討論する。秋学期の予定：受講生が関心を持つフィールドをより積極的に限定し、卒業論文の準備作業を進める。</p>
<p>「社会学文献研究(独)」</p> <p>受講生の小人数のため、tutorial 式の</p> <p>ゼミを行った。</p> <p>タームペーパー (約8000字)</p>	<p>同上</p>	<p>春学期は、M.ウェーバーの「職業としての学問」を始めとし、Th. W. アドルフ・M.ホルクハイマーの「啓蒙の弁証法」、「理性と自己保存」などのテキストを読み、20世紀における近代の状況を批判的にアプローチした。</p> <p>秋学期には、焦点を「近代と社会」という問題に当て、近代社会におけるさまざまな問題(個人と全体、正義、公共性など)を追究する予定。毎回受講生がプレゼンテーションを行い、討論する。</p>
<p>「哲学文献研究BⅡ」</p> <p>グローバル的テキスト理解を支える</p> <p>テキストに関する質問を用意し</p> <p>(紙ベース)、毎回それをたどりながら</p> <p>テキストを読み続けた。</p> <p>ドイツ語構文の分析を練習した。</p> <p>平常点</p>	<p>2005年4月～</p> <p>2005年9月</p>	<p>Hannah Arendt, "Vita Activa" の精読を中心とした演習。ただし、学習者はテキストの単なる日本語訳を作成せず、いわゆるグローバル的テキスト理解を訓練した。政治哲学者のアレントの思想の紹介を含む演習であった。</p>

<p>「ドイツ語文法Ⅱ」</p> <p>ビデオ、テキスト、CDなどを含む教材を利用し、学生のニーズに対応できるコミュニケーティブな教授法。</p> <p>小テスト、学期末試験を行った。</p>	<p>同上</p>	<p>「ドイツ語文法Ⅰ」の続き 上述のアプローチをたどりながら、さらに集中的にドイツ語を学習し、受講生のドイツ語運用力アップを目標とした授業。</p>
<p>「ドイツ語読本Ⅱ」</p> <p>同上</p> <p>「ドイツ語文法Ⅱ」と連結した授業</p>	<p>同上</p>	<p>「ドイツ語読本Ⅰ」の続き 上述のアプローチをたどりながら、さらに集中的にドイツ語を学習し、受講生のドイツ語運用力アップを目標とした授業。</p>
<p>「哲学・思想講読演習」</p> <p>グローバル的テキスト理解を支える</p> <p>テキストに関する質問を用意し</p> <p>(紙ベース)、毎回それをたどりながら</p> <p>テキストを読み続けた。</p> <p>平常点</p>	<p>2004年4月～ 2005年3月</p>	<p>ドイツ教養主義に関するテキスト (Manfred Fuhrmann, "Bildung", Stuttgart 2002) の精読を中心とした演習。ただし、学習者はテキストの単なる日本語訳を作成せず、いわゆるグローバル的テキスト理解を訓練した。それに加えて、現在ドイツの教育事情についての情報を与えた。</p>
<p>「哲学講義 A」</p> <p>自作の教材を元にした講義</p> <p>講義スタイル(約70分)</p> <p>質問に取り組む時間(約20分)</p> <p>を設置した</p> <p>毎回講義内容のレジュメを用意し</p> <p>(紙ベース)それを配布した。</p> <p>感想文を書いてもらった。</p> <p>学期末試験</p>	<p>2005年4月～ 2005年9月</p>	<p>西洋近代哲学を一貫している問題、即ち認識論、倫理学、歴史哲学、言語哲学を描きながら、現在の西洋哲学の系譜を紹介した。</p>
<p>「基礎演習」</p> <p>ゼミ形式の授業：読書・議論、</p> <p>グループごとのプレゼンテーション</p> <p>プレゼンテーションの準備として</p> <p>グループ・個人指導(内容的なことについて、形式的なことについて)</p> <p>を行った。</p> <p>図書館ガイダンスを行った</p> <p>タームペーパー (約4000字)</p>	<p>同上</p>	<p>演習の目標は、新入生の、大学という新たな環境に対しての問題意識を呼び起こし、大学での学び方を紹介し練習するところにあった。立花隆氏の教育論から出発して、受講生とともに大学で勉強するということの現実と可能性を検討した。外国における教育論 (M.ウェーバー、G.スタイナーなど) との対比において、立花氏の教育論を批判的に検討し、それを考え直すことに至った</p>

<p>2 作成した教科書、教材、参考書 講義原稿、配布用のレジュメ (講義用) 問題用紙(演習用)</p>		
<p>3 教育方法・教育実践に関する 発表、講演等</p>		
<p>4 その他教育活動上特記すべき 事項</p>		

